

# 三宝尊『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』の和訳

## ——十種分別散乱総説、無相分別散乱、および、有相分別散乱——

飛田 康裕

### 1. はじめに

#### 1.1. 『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』(\*Prajñāpāramitāpiṇḍārthasamgrahavivarāṇa-) について

以下に、三宝尊 (dkon mchog gsum gyi 'bangs, \*Triratnadāsa-) による『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』 ('phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin ma bsdu pa'i tshig le'ur byas pa'i rnam par 'grel pa, \*Āryaprajñāpāramitāpiṇḍārthasamgrahavivarāṇa-, PrPPSV) の和訳を試みる。この『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』は、その前半部において、「十六空」が解説され、その後半部において、「十種分別散乱」(\*vikalpavikṣepa-) が解説されるが、ここでは、特に、後半部の十種分別散乱の解説を取り上げる。また、紙幅の関係上、小稿では、十種分別散乱の解説のうち、その総説 ([0])、無相分別散乱 (\*abhāvavikalpavikṣepa-) の解説 ([1])、そして、有相分別散乱 (\*bhāvavikalpavikṣepa-) の解説 ([2-1]) の翻訳を提示する。

この三宝尊の論書については、サンスクリット語の原文は既に散佚し、現在では、北宋の施護などによる漢訳、ならびに、ティラカカラシャ (Thig le bum pa, \*Tilakakalāśa-) とローデンシェーラブ (Blo ldan shes rab) によるチベット語訳が存在するばかりである。しかしながら、施護の漢訳は、綴文、潤文、いづれも疎かで、正確に読解することが困難である。このため、小稿では、専らチベット語訳に基づき、漢訳は、参考までに括弧に入れて和訳に添えるにとどめた。

この『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』という著作は、陳那 (phyogs kyi glang po, \*Dignāga-) に帰される『仏母般若波羅蜜多円集要義論』 (Prajñāpāramitāpiṇḍārthasamgraha-, PrPPS) に対して三宝尊が施した註釈を集成したものである。

まず、この陳那については、およそ5世紀後葉から6世紀中葉の人物と目されている。彼は、『集量論』 (Pramāṇasamuccaya-) を撰述し、インドの仏教界にあって論理学の体系化に先鞭をつけた学僧としての令名が高い。しかしながら、彼については、般若波羅蜜多経を講じたことも伝えられており<sup>1</sup>、この『仏

<sup>1</sup> Tāranātha fol. 136, 1ff. (68b1ff.): slob dpon dkon mchog gsum gyi 'bangs ni slob dpon dbyig gnyen las mngon pa'i sde snod thos<sup>[68b2]</sup> pa yul gzhan tha dad kyi sde snod 'dzin pa du ma bsten pa/ slob dpon phyogs kyi glang po dang shin tu mdza' bshes su gyur pa/ phyogs kyi glang po la shes rab kyi pha rol tu pyin pa nyan pa'i slob ma zhig ste/ blo gros phyogs kyi glang po dang mnyam par grags shing brgyad<sup>[68b3]</sup> stong don bsdu la 'grel pa yang mdzad/ 'dis mdzad pa'i yong tan mtha' yas par bstod pa la phyogs kyi glang pos kyang bsdu don mdzad do// (三宝尊 (dkon mchog gsum gyi 'bangs, \*Triratnadāsa-) 阿闍梨は、世親 (dbyig gnyen, \*Vasubandhu-) 阿闍梨からアビダル

(42)

母般若波羅蜜多円集要義論』は、唯識思想の立場から『八千頌般若波羅蜜多經』の内容を簡明に論じたものである。

次に、この陳那の著作の体裁について見ると、全体は、58偈の韻文より成り、第1偈から第5偈までは総説、第4偈から第18偈までは十六空の解説、第19偈から第54偈までは十種分別散乱の解説、そして、第55偈から第58偈までは総括という構成となっている<sup>2</sup>。

よって、小稿で取り上げる三宝尊の十種分別散乱の解説は、陳那の第19偈から第54偈に施された散文による註釈ということとなる。

ここで、この三宝尊の十種分別散乱の解説の概要を示せば、以下のようになる（なお、十種の「分別散乱」については、施護による漢訳の術語を用い、括弧内には、より一般的と思われる『大乘莊嚴經論』の漢訳の術語を添えた）。

[0] 十種分別散乱（十種散乱分別）総説 .....	PrPPSV P344a4-/ D301b4-
[1] 無相分別散乱（無体分別） .....	PrPPSV P345a7-/ D302b5-
[2-1] 有相分別散乱（有体分別） .....	PrPPSV P346b3-/ D303b5-
[2-2] 三性説	
[2-2-0] 三性説総説 .....	PrPPSV P347b8-/ D304b6-
[2-2-1] 遍計所執性 .....	PrPPSV P348a7-/ D305a4-
[2-2-2] 依他起性 .....	PrPPSV P348b3-/ D305a7-
[2-2-3] 円成実性 .....	PrPPSV P348b6-/ D305b3-
[2-2-4] 三性説と般若經の經文との関係性 .....	PrPPSV P349b2-/ D306a4-
[3] 俱相分別散乱（増益分別） .....	PrPPSV P351a4-/ D307b1-
[4-1] 毀謗分別散乱（損減分別） .....	PrPPSV P351b2-/ D307b6-
[4-2] 如来蔵 .....	PrPPSV P351b6-/ D308a2-
[5] 一性分別散乱（一相分別） .....	PrPPSV P353b3-/ D309b2-

---

マ蔵を学び、他の地域の異なる部派の〔三〕蔵をも受持していた。〔また、彼は、〕陳那（phyogs kyi glang po, \*Dignāga）阿闍梨ともよしみを結び、般若波羅蜜多については陳那阿闍梨の講筵に列した。〔その〕理解においては陳那に等しいと称讃され、〔陳那の〕『八千〔頌般若波羅蜜多〕円集要義〔論〕』（brgyad stong don bsdus）に対する註釈も物した。〔一方、〕彼が物した『無辺功德』（yong tan mtha' yas par bstod pa, \*Guṇāpariyantastotra-）に対しては、陳那が『円集要義』（bsdus don）を物した。寺本〔1974〕、Lama Chimpa, etc.〔1070〕参照。

<sup>2</sup> 服部〔1961〕参照。

[6] 種種分別散乱（異相分別） .....	PrPPSV P354a3-/ D309b7-
・ 論証因（1） .....	PrPPSV P355a4-/ D310b7-
・ 論証因（2）：自己認識に関する議論 .....	PrPPSV P355a7-/ D311a1-
・ 論証因（3） .....	PrPPSV P357a3-/ D312a5-
[7] 自性分別散乱（自相散乱分別） .....	PrPPSV P357a8-/ D312b1-
[8] 差別分別散乱（別相散乱分別） .....	PrPPSV P358a2-/ D312b7-
[9] 如名於義分別散乱（如名起義分別） .....	PrPPSV P358a6-/ D313a3-
[10] 如義於名分別散乱（如義起名分別） .....	PrPPSV P359a8-/ D313b7-

この三宝尊の著作は、陳那の著作に対する註釈であるから、勢い、三宝尊も、陳那と同じく、唯識思想に基づいて、これを解釈することとなる。しかしながら、この論書には、一般的な唯識思想に比して、三宝尊の特異性が顕著に表れている箇所が存在する。その箇所とは、上記のうち、[2-2] 三性説と [6] 種種分別散乱（異相分別）における論証因（2）の部分である。

まず、一般的な唯識思想における三性説は、認識である依他起性を中心に据えて、その認識を拠り所とする遍計所執性と認識の有する空性である円成実性を説明するが、[2-2]における三宝尊の三性説は、円成実性を無二智（\*advayajñāna-）——所取（把握される対象）・能取（把握する認識）という形相を離れた知覚——と定めて、これを基盤に据え、この無二智の上に現れる所取・能取の顕現を依他起性とし、さらに、この所取・能取の顕現に対して付託される言葉や概念を遍計所執性として説明している。以上のように、空性よりも、むしろ、無二智を主眼として円成実性を説いているところに、三宝尊の思想の特異性がある<sup>3</sup>。

次に、[6] 種種分別散乱（異相分別）における論証因（2）の箇所においては、自己認識——自己を認識する知覚——の論証が行われるが、ここにおいては、上記の「無二智」が、この自己認識であることが開陳される<sup>4</sup>。先述の陳那が自己認識を説いたことは周知のごとくであるが、これを無二智とみなして、自己認識と般若波羅蜜多（完成した智慧）との統合を図ろうとしたところは、三宝尊の思想の特異性と認められよう。

## 1.2. 三宝尊（\*Tiratnadāsa-）について

この『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』（PrPPS）の著者、三宝尊（dkon mchog gsum gyi 'bangs,

<sup>3</sup> 拙稿 [2019] 参照。

<sup>4</sup> 拙稿 [2018; 註 76] 参照。

\*Tīratnadāsa-) が如何なる人物であったかについての情報は、必ずしも多くない。

まず、チベットの学僧・ターラナータ (1575-1634) が、その著書『インド仏教史』(rgya gar chos 'byung) の中に残した伝承によれば、三宝尊は、アビダルマを世親 (dbyig gnyen, \*Vasubandhu-) から学び、また、陳那 (phyogs kyi glang po, \*Dignāga-) とも親交があつて、般若波羅蜜多については、これを陳那から学んだとされる<sup>5</sup>。そして、三宝尊は、陳那の著作である『仏母般若波羅蜜多円集要義論』に註釈を施し、一方で、陳那は、三宝尊の著作である『功德無辺讚』(yong tan mtha' yas par bstod pa, \*Guṇāparyantastotra-) に註釈を施したとされる<sup>6</sup>。さらに、この『インド仏教史』には、三宝尊をバヴィヤ (legs ldan, \*Bhavya-) と同時代の人とする記述も存する<sup>7</sup>。この伝承に従えば、三宝尊は、陳那と同時代 (およそ5世紀後葉から6世紀中葉) の人であり、陳那とも知己であつたということとなる。

次に、文献の引用関係から考えられうる三宝尊の年代の下限について示す。三宝尊が、[6] 種分別散乱 (異相分別) に関わる論証因 (2) として、自己認識の論証を展開させていることは先にも述べたが、この論証の大部分 (PrPPSV P355b7-356b3/ D311a6-311b6) が、増補改変されながらも、シャーキャブッディ (Śākyabuddhi-) の『量評釈註』(Pramānavārttikaṭkā-, PVT P251a7-252a6/ D203b-204b4) に引用されている。シャーキャブッディは、引用に際して、それが三宝尊の説であることを明言しておらず、場合によっては、既に散佚している同一の文献などから、三宝尊とシャーキャブッディの両者が引用を行ったという可能性も否定できない。しかしながら、シャーキャブッディの引用文のほかには引用の事例が見当たらないこと、そして、両者を比較したときに、シャーキャブッディの引用のほうが、明らかに、法称 (Dharmakīrti-) の思想の影響を受け、整備されていることを考慮すると、シャーキャブッディが三宝尊の説を引用した可能性が高い。このことから、仮にはあるが、三宝尊の下限は、シャーキャブッディの時代 (およそ7世紀中葉から8世紀初葉) に設定することが可能である。

さらに、使用される用語から考えられうる三宝尊の年代の上限について述べる。同じく、[6] 種分別散乱 (異相分別) に関わる論証因 (2) における三宝尊の自己認識論証においては、「自性因」(PrPPSV P356b7/ D312a2: rang bzhin gyi gtan tshigs, \*svabhāvahetu-) なる語が見出される。この語は、法称の独自の思想を表す特徴的な用語である。しかのみならず、三宝尊の記述には、同様に法称の独自の思想を表す「結果因」(kāryahetu-) の概念を仄めかす箇所 (PrPPSV P356a2/ D311a7f.) や、法称によって整備された

<sup>5</sup> 註1参照。

<sup>6</sup> 註1参照。

<sup>7</sup> Tāranātha fol. 123, 5f. (62a5f.): slob dpon <sup>[62a6]</sup> dkon mchog gsum gyi 'bangs zhes pa'ang legs ldang dang dus mnyam pa tsam yin cing / (また、三宝尊 (dkon mchog gsum gyi 'bangs, \*Tīratnadāsa-) 阿闍梨と呼ばれる人は、バヴィヤ (legs ldan, \*Bhavya-) 阿闍梨と同時代であつて……)。寺本 [1974]、Lama Chimpa, etc. [1070] 参照。

「非知覚」(anupalabdhi-) の下位分類である「本性と矛盾することが知覚されること」(PrPPSV P355 b2/ D311a2: rang bshin 'gal ba dmig pa, \*svabhāvaviruddhopalabdhi-) という表現も見られる。このことから、三宝尊の年代の上限を法称と同時代（およそ 6 世紀中葉から 7 世紀中葉）に設けることも考慮されなければならない。しかるに、三宝尊の記述は、全ての論証因が「自性因」と「結果因」のみに集約されると考える法称に比して、「自性因」と「結果因」を用いて網羅的に論証を完遂せんとする意図に乏しく、時に応じて、これらの用語や概念が散見されるにすぎない。よって、三宝尊が、法称の思想の影響下にあるとは必ずしも言い切れず、その年代が法称を遡る可能性も否定できない。

以上のごとく、三宝尊の年代は極めて曖昧であり、その特定には、さらなる思想史的な吟味、とりわけ、法称の思想との影響関係の考察が必要となる。

さて、これより、三宝尊の『仏母般若波羅蜜多円集要義論』(PrPPSV) の和訳を示す。和訳に際しては、まず、陳那の『仏母般若波羅蜜多円集要義論』(PrPPS) のサンスクリット語原文・チベット語訳・サンスクリット語原文からの和訳を順に掲げ、次に、三宝尊の註釈のチベット語訳 (PrPPSV)・チベット語訳からの和訳を順に掲げることとした。対応する漢訳の箇所情報については、それぞれの和訳の末尾に示してある。なお、和訳に先立ち、必要に応じて、簡素な解説を挿入した部分もある。

## 2. [0] 分別散乱総説

陳那は、その著書『仏母般若波羅蜜多円集要義論』(PrPPS) の第 1 偈において、「般若波羅蜜多（完成した智慧）は無二智である<sup>8</sup>」と述べ、また、「[般若波羅蜜多（完成した智慧）は] 達成されるべきものである」と述べる。よって、以下に述べられる「無二智」は「達成されるべきもの」と考えられていることが分かる。

しかるに、現実には、十種の分別散乱 (\*vikalpavikṣepa-, [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの) を原因として、多くの愚者たちの心は、存在もせず本質的でもない外界の対象などに向かい、無二智が達成されない状況にある。以下は、この事態について解説している部分である。

<sup>8</sup> PrPPS v. 1: prajñāpāramitā jñānam advayaṃ sā tathāgataḥ/ sādhyā tādarthyayogena tācchabdyam granthamārgayoḥ// (般若波羅蜜多（完成した智慧）は、無二智であり、それ（完成した智慧）が如来である。[般若波羅蜜多（完成した智慧）は] 達成されるべきものであり、[[般若波羅蜜多経] の] 本文と [般若波羅蜜多（智慧の完成）のための修行] 道とは、その目的（智慧の完成）に適っているがゆえに、その語（「般若波羅蜜多」）を有する（「般若波羅蜜多」という語で呼ばれる）。

PrPPS v. 19:

daśabhiś cittavikṣepaiś cittaṃ vikṣiptam anyatah/  
yogyam bhavati bālānāṃ nādvayajñānasādhane//19//

G413b1/ P334a4f./ N334b7/ D293a7/ C299b7f.:

sems kyi rnam par g-yeng ba bcus// gzhan (gzhan GPDC; gzhal N) las <sup>[C300a1]</sup>sems ni rnam g-yengs (g-yengs GPN; g-yeng DC)  
pas// (pas// GDC; pas/ P; par// N) byis pa rnam la gnyis med kyi// ye shes sgrub pa'i skal pa <sup>[P334a5]</sup>med//

十 [種] の心を散乱させるもの (cittavikṣepa-, sems kyi rnam par g-yeng ba, 心散亂) によって、心は、  
[無二とは] 別のほうに散乱している。[そのゆえに、そのように散乱している心は、] 愚者たちに  
よって無二智 (advajajñāna-, gnyis med kyi ye shes, 無二智, 把握するものと把握されるものという二  
つのものを有しないものである智) が達成されるには適しない。【T25, 913a21f.】

PrPPSV G425b5f./ P344a4ff./ N345a7f./ D301b5f./ C308b4f.:

rnam par <sup>[P344a5]</sup>rtog pa'i (rnam par rtog pa'i DC; rnam par rtogs pa'i GPN) rnam <sup>[C308b5]</sup>par g-yeng ba rnam pa bcu (rnam pa bcu DC;  
bcu GPN) bsal bas bsgom pa (bsgom pa DC; bsgoms pa GPN) rtogs (rtogs GPN; rtog CD) par bya'o (bya'o DC; bya'o/ GN; bya'o/ P) zhes  
<sup>[G425b6]</sup>brjod pa yin na/ rnam par rtog pa'i rnam pa g-yeng ba rnam pa <sup>[D301b6]</sup>bcu po de dag ni gang dag (bcu po de  
dag ni gang dag GPN; bcu po DC) <sup>[N345b1]</sup>yin la de dag bsal ba <sup>[P344a6]</sup>yang ji ltar yin zhe na/ des na brjod pa ni/ (ni/ DC; ni  
GPN) **sems kyi rnam par g-yeng ba bcus//** (bcus// DC; bcus GPN) zhes bya ba la sogs pas so//

十種の [誤った] 構想である [心を] 散乱させるもの (rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*vikalpavikṣepa-, 分別散亂法) を排除すること (bsal ba, 除遣) を通して、[般若波羅蜜多 (智慧の完成のための修行) における] 修習 (bsgom pa, \*bhāvanā-) が実践されるべきである (rtogs par bya, \*pratipattavya-) <sup>9</sup>と云うのであれば、何が、この十種の [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (rnam

<sup>9</sup> 陳那は、『仏母般若波羅蜜多円集要義論』(PrPPS) の第 2 偈において、「『般若波羅蜜多經』においては」  
「[『般若波羅蜜多經』においては] 修習とは、十種の [誤った] 構想という [心を] 散乱されるものを排除することを通して [実践されるべきこと (心を散乱させるものの排除) を] 実践することである」(PrPPSV P337b5f./ D296a6: bsgom pa ni rnam par  
rtog pa'i rnam par g-yeng ba rnam pa bcu bsal bas rtog par bya'o//) と述べている。また、『十万頌般若波羅蜜多經』(ŚSPrP) あるいは『二万五千頌般若波羅蜜多經』(PVSPrPS) においては、十種の分別散亂を排除する役割をもつとされる経文が説かれるに際して、以下のような前置きが為される。Cf. ŚSPrP 118, 7-10: evam ukte āyusmān śāradvatīputro bhagavantam etad avocat — katham punar bhagavan bodhisattvena

par rtog pa'i nram par g-yeng ba, \*vikalpavikṣepa-, 分別散亂) であって、また、如何にして、それらを排除するのか、と [問うので、] そのゆえに——「十[種]の心を散乱させるものによって」(sems kyi nram par g-yeng ba bcus, PVSPPrPS \*daśabhiś cittavikṣepaiḥ, 十種心散亂) 云々と言うのである。【T25, 904c12-16】

PrPPSV G426b7-426b2/ P344a6-344b7/ N345b1-346a2/ D301b6-302a5/ C308b6-309a5:

[C308b6] byang chub <sup>[G426a1]</sup> sems dpa' las dang po pa nrams kyi nram par rtog pa'i nram par g-yeng <sup>[P344a7]</sup> ba (nram par g-yeng ba GPDC; nram par g-yeng bar N) nram pa bcu <sup>[N345b2]</sup> ni 'di lta ste/ <sup>[1]</sup> dngos po <sup>[D301b7]</sup> med pa'i rgyu mtshan can gyi nram par rtog pa'i nram par g-yeng ba dang / <sup>[2]</sup> dngos po'i rgyu mtshan can <sup>[G426a2]</sup> gyi nram par rtog pa'i nram par g-yeng ba dang / <sup>[3]</sup> sgro 'dogs <sup>[C308b7]</sup> pa'i (sgro 'dogs pa'i GPND; sgro 'dogs// pa'i C) <sup>[P344a8]</sup> rgyu mtshan can (rgyu mtshan can PNDC; mtshan can G) gyi nram par rtog pa'i nram <sup>[N345b3]</sup> par g-yeng ba dang / <sup>[4]</sup> skur pa 'debs pa'i rgyu mtshan can gyi nram par rtog <sup>[D302a1]</sup> pa'i nram par g-yeng ba dang / <sup>[5]</sup> gcig nyid kyi rgyu mtshan <sup>[G426a3]</sup> can gyi nram par rtog pa'i nram <sup>[P344b1]</sup> par g-yeng ba dang / <sup>[6]</sup> du ma nyid kyi (du ma nyid kyi DC; du ma'i nram par rtog pa'i GPN) rgyu mtshan can <sup>[N345b4]</sup> gyi nram par rtog pa'i nram <sup>[C309a1]</sup> par g-yeng ba dang / <sup>[7]</sup> ngo bo nyid kyi rgyu mtshan can gyi nram par rtog pa'i (nram par rtog pa'i GNDC; nram par rtogs pa'i P) nram par g-yeng ba dang / <sup>[D302a2]</sup> <sup>[8]</sup> khyad par <sup>[G426a4]</sup> gyi rgyu mtshan can <sup>[P344b2]</sup> gyi nram par rtog pa'i nram par g-yeng ba dang / <sup>[9]</sup> ming ji lta ba bzhin pa'i don gyi <sup>[N345b5]</sup> rgyu mtshan can gyi nram par rtog pa'i (nram par rtog pa'i GNDC; nram par rtogs pa'i P) nram par g-yeng

mahāsattvena prajñāpāramitāyāṃ caritavyaṃ. bhagavān āha — iha śāradvatīputra bodhisattvo mahāsattvaḥ prajñāpāramitāyāṃ caran .....(以上のように説かれたとき、シャーラドゥヴァティーブットラ(śāradvatīputra-) 長老は、世尊に、以下のように尋ねた——しかるに、世尊よ。菩薩(bodhisattva-) 摩訶薩(mahāsattva-) は、般若波羅蜜多(智慧の完成のための修行)において、**如何にして[実践すべきことを] 実践すべきでしようか**、[と。以上のように説かれたとき、] 世尊は、[シャーラドゥヴァティーブットラ長老に、以下のように] お説きになった——シャーラドゥヴァティーブットラよ。菩薩摩訶薩が、この般若波羅蜜多(智慧の完成のための修行)において[実践すべきことを] 実践するとき.....) / PVSPPrPS 37, 14-17: evam ukte āyusmān śāriputro bhagavantam etad avocat — katham bhagavan bodhisattvena mahāsattvena prajñāpāramitāyāṃ caritavyam. evam ukte bhagavān āyusmantam śāriputram etad avocat — iha śāriputra bodhisattvo mahāsattvaḥ prajñāpāramitāyāṃ caran ..... (以上のように説かれたとき、シャーリブットラ(śāriputra-) 長老は、世尊に、以下のように尋ねた——世尊よ。菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜多(智慧の完成のための修行)において、**如何にして[実践すべきことを] 実践すべきでしようか**、[と。] 以上のように説かれたとき、世尊は、シャーリブットラ長老に、以下のようにお説きになった——シャーリブットラよ。菩薩摩訶薩が、この般若波羅蜜多(智慧の完成のための修行)において[実践すべきことを] 実践しているとき.....) . 以上よりしても、この後に示される十種の分別散乱を排除する経文の内容こそが、修習の内容であることが分かる。

ba dang /<sup>[10]</sup> don ji<sup>[C309a2]</sup> lta ba bzhin ming yin pa'i rgyu mtshan can gyi rnam par<sup>[G426a5]</sup> rtog<sup>[P344b3]</sup> pa'i rnam  
 par g-yeng ba ste/ de lta bu'i sems kvi rnam par<sup>[D302a3]</sup> g-veng ba 'di dag bcus (bcus GPND; bcu ga C) gzhan las  
 te/ (gzhan las te/ GPN; gzhan la ste/ DC)<sup>[N345b6]</sup> gnyis su med pa (gnyis su med pa PND; gnyisu med pa GC) de las sems ni ste (ste GND; se  
 P) bsam pa (bsam pa PN; bsam pa G; bsams pa DC) rnam par g-veng ba ste/ bye brag tu g-yeng bas (g-yeng bas GPND; g-yeng bar C)  
<sup>[P344b4]</sup> mam par g-yeng ba ste/ (ste/ GND; ste C; sta/ P)<sup>[G426a6]</sup> srid pa'i longs spyod la sogs pa<sup>[C309a3]</sup> rnam la 'phyo  
 zhing 'phyan par byed do (byed do PNDC; byedo G) zhes bya ba'i tha tshig go// (go// D; go/ GPC; ko/ N) de las (de las GPND; de la C)  
<sup>[N345b7]</sup> kyang sems de skal pa (skal pa GPDC; bska/ pa N)<sup>[D302a4]</sup> med par 'gyur ro// ('gyur ro/ PDC; 'gyuro/ GN) su dag gis  
 she na/ brjod<sup>[P344b5]</sup> pa (brjod pa DC; brjod par GPN) bvis pa rnam (bvis pa mams DC; bvis pa rnam pa GPN) la zhes bya ba'o//  
bvis pa zhes bya ba ni (ni GPND; na C) spang<sup>[G426b1]</sup> bya (spang bya DC; spang ba GPN;) dang blang bya'i (blang bya'i GPN; spang  
 bya'i DC) de kho na mi shes pa la brjod do// (brjod do// PNDC; brjodo// G) gang la skal ba<sup>[C309a4]</sup> med ce na/ brjod pa  
gnyis med (gnyis med DC; gnyis GPN) kvi<sup>[N346a1]</sup> ve shes bsgrub pa'i zhes bya (zhes bya GPN; shes bya DC) ste/ gang<sup>[P344b6]</sup>  
 la gnyis yod pa ma yin pa de<sup>[D302a5]</sup> ni gnyis med do// (med do// PNDC; medo// G) gnyis med kyang de yin la ye shes  
<sup>[G426b2]</sup> kyang de yin pas (de yin pas GND; de/ yin pas P) gnyis med ve shes (ye shes PNDC; yais G) te de sgrub pa (de sgrub pa  
 GPN; sgrub pa DC) ste (ste PNDC; ste/ G) bsgrub pa dang nges pa dang yongs<sup>[N346a2]</sup> su grub pa (yons su grub pa PNDC; yonsu grub pa  
 G) zhes bya ba'i<sup>[C309a5]</sup> don<sup>[P344b7]</sup> to// grub par bsgrub pa (grub par bsgrub pa DC; bsgrub par bsgrub GPN) zhes bya ba'i bye  
 brag tu (bye brag tu PNDC; bye breg tu G) bshad pa 'dis so// ('dis so// PNDC; 'diso// G)

初学の菩薩 (byang chub sems dpa' las dang po pa, \*ādikarmikabodhisattva-, 新發意菩薩) たちに [ある]  
 十種の [誤った] 構想という [心を] 散乱させるものは、以下の通りである。[すなわち、] [1] [存  
 在するものを] 存在しない [とみなす] ことに関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させる  
 もの (dngos po med pa'i rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*abhāvanibandhana-  
 vikalpavikṣepa-, 無相分別散亂)、[2] [存在しないものを] 存在する [とみなす] ことに関係する [誤  
 った] 構想という [心を] 散乱させるもの (dngos po'i rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par  
 g-yeng ba, \*bhāvanibandhanavikalpavikṣepa-, 有相分別散亂)、[3] [智の外の存在しない事物までをも]  
 過剰に肯定することに関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (sgro 'dogs pa'i rgyu mtshan  
 can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*adhyāropanibandhanavikalpavikṣepa-, 俱相分別散亂)、[4]  
 [存在する智までをも] 過剰に否定することに関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させる  
 もの (skur pa 'debs pa'i rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*apavādanibandhana-  
 vikalpavikṣepa-, 毀謗分別散亂)、[5] [法 (事物) と法性 (事物のあり方=空性) とを全く] 同一 [と  
 みなすこと] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (gcig nyid kyi rgyu mtshan can

gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*ekatvanibandhanavikalpavikṣepa-, 一性分別散亂)、[6] [法(事物)と法性(事物のあり方=空性)とを全く] 別々 [とみなすこと] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (du ma nyid kyi rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*nānātvānibandhanavikalpavikṣepa-, 種種分別散亂)、[7] [事物が] 固有のあり方 [を有するとみなすこと] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (ngo bo nyid kyi rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*svabhāvanibandhanavikalpavikṣepa-, 自性分別散亂)、[8] [法性(事物にあるあり方=空性)が] 異なるあり方 [を有するとみなすこと] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (khyad par gyi rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*viśeṣanibandhanavikalpavikṣepa-, 差別分別散亂)、[9] 名称の [存在する] ように対象 [も存在すると執著すること] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (ming ji lta ba bzhin pa'i don gyi rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*yathānamārthanibandhanavikalpavikṣepa-, 如名於義分別散亂)、そして、[10] 対象の [存在する] ように名称 [も存在すると執著すること] に関係する [誤った] 構想という [心を] 散乱させるもの (don ji lta ba bzhin ming yin pa'i rgyu mtshan can gyi rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*yathārthanāmanibandhanavikalpavikṣepa-, 如義於名分別散亂) である。これら、以上のような「十[種]の心を散乱させるものによって」(sems kyi rnam par g-yeng ba ..... bcus, \*daśabhiś cittavikṣepaiḥ, 十種……令心散亂)、「別のほうへ」(gzhan las, \*anyatas, 異處)、すなわち、かの無二 (gnýis su med pa, \*advaya-, [把握されるものと把握するものという] 二つのものを有しないもの) とは [別のほうへ、]「心は」(sems ni, \*cittam, 心心所)、すなわち、知 (bsam pa, \*mati-) は、「散乱している」(rnam par g-yeng ba, \*vikṣiptam, 散亂)。すなわち、[その心は、本来の無二というあり方とは] 異なつてばらばらになっている (bye brag tu g-yeng ba, 異動亂) から、「散乱している」[と言われる] のである。[つまり、その心が、] 生存を享受すること (srid pa'i longspyod, \*bhavabhoga-, 有分位) などに浸り ('phyo, \*√plu-, 動亂)、[生存の中を] さまよう ('phyan pa, \*√bhrām-, 所引)、という意味である。そして、そのゆえに、その [無二とは別のほうへ散乱している] 心 (sems, \*citta-, 心) は、「適しない」(skal pa med par 'gyur, \*na ..... yogyam bhavati, 不得相應) のである。[その無二とは別のほうへ散乱している心は、] 誰によって [無二智が達成されるには適しないの] か、と [問うので――] 「愚者たちによって」(byis pa rnams la, \*bālānām) と言うのである。「愚者」(byis pa, \*bāla-) とは、捨てられるべき (spang bya, heya-, 損) [真實] と取られるべき (blang bya, \*upādeya-, 益) 真實 (de kho na, \*tattva-, 真實法) とを知らない者<sup>10</sup>を [そのように] 言うのである。[その無二

<sup>10</sup> Cf. PVV 20, 20-24: hevipādevatattvasya sābhyupāyasya vedakaḥ/ yaḥ pramāṇam asāv iṣṭo na tu sarvasya vedakaḥ// [PV II. 34] tasmād dhevatattvasya duḥkhasatvasya sābhyupāyasya samudayasatyānvyitasyaopādeva-

(50)

とは別のほうへ散乱している心は、] 何に適しないのか、と [問うので——] 「無二智 (把握するものと把握されるものという二つのものを有しないものである智) が達成されるには [適しない]」 (gnyis med kyi ye shes bsgrub pa'i, \*advayajñānasādhane) と言うのである。或る [もの] (A) に二つのものが存在しない場合、それ (A) は二つのものを有しないもの [有財積: 所有複合語] である (\*yasya dvayaṃ nāsti, tad advayaṃ)。或るもの (B) が、二つのものを有しないものであって、そして、それ (B) が智であるから、二つのものを有しないものである智 (無二智) 【持業積: 同格限定複合語】である (\*tad advayaṃ tac ca jñānam ity advayajñānam)。[そして、] それの「達成」 (sgrub pa, \*sādhana-) とは、[それが] 成就されていること (bsgrub pa, 成辦)、[それが] 定まっていること (nges pa, \*viniściti-, 決定)、あるいは、[それが] 完成されていること (yong su grub pa, \*pariṇiṣṭatti-, 成辦) の意味である。「達成されていること」 (grub pa, \*siddhi-) [の意味] で、「達成」 (sgrub pa, \*sādhana-) [という語] が [用いられる] という解釈 (bye brag tu bshad pa, \*vyutpatti-) にしたがって [以上のように理解するの] である。【T25, 904c17-905a1】

PrPPSV G426b2f./ P344b7f./ N346a2f./ D302a5f./ C309a5f.:

'di skad du gang gi phyir sems kyi rnam par g-yeng <sup>[G426b3]</sup> ba <sup>[D302a6]</sup> 'di rnam kyis (kyis PN; kyi GDC) so so skye bo rnam kyis sems gzugs dang sgra dang dri dang <sup>[P344b8]</sup> ro dang reg bya la <sup>[N346a3]</sup> sogs pa rnam la khyer ba des na shin tu rnam par <sup>[C309a6]</sup> dag pa'i ye shes (ye shes PND; yais G) bsgrub par mi nus so// (mi nus so// PDC; mi nus// GN)

以上のように、これら、心を散乱させるもの (sems kyi rnam par g-yeng ba, \*cittavikṣepa-) によって、凡夫 (so so skye bo, \*pṛthagjana-, 異生) たちの心 (sems, \*citta-) は、色形 (gsugs, \*rūpa-, 色) や音 (sgra, \*śabda-, 聲) や香り (dri, \*gandha-, 香) や味 (ro, \*rasa-, 味) や触れられうるもの (reg bya, \*spraṣṭavya-, 觸) などのほうへと連れ去られる (khyer ba, \*apa-vhr-, 生取著) がゆえに、そのゆえに、[凡夫たち

---

tattvasya nirodhasatvasya sābhyupāyasya mārggatasyasahitasya pramāṇapariśuddhasya yo vedakaḥ<> sa pramāṇam iṣṭo<> na tu sarvvasya yasya kasyacid vivedakaḥ (或る者が、要因とともにある捨てられるべき [真実] と取られるべき真実を知っている場合に、その者が、正しい認識根拠であると認められるのである。しかし、全てのことを知っている [からと言って、その] 者が [正しい認識根拠と認められるわけ] ではない。[PV II. 34] そのゆえに、或る者が、要因とともにある、[すなわち、] 集諦を具えている、捨てられるべき真実を、[すなわち、] 苦諦を、[そして、] 要因とともにある、[すなわち、] 道諦を伴っている、[つまりは、] 正しい認識によって完全に清められている、取られるべき真実を、[すなわち、] 滅諦を、知っている場合に、その者が、正しい認識根拠であると認められるのである。しかし、全てのことを、[すなわち、] 何でも彼でも、知っている [からと言って、その] 者が [正しい認識根拠と認められるわけ] ではない) .

によつては] 見事に清められた智 (shin tu rnam par dag pa'i ye shes, \*suviuddhajñāna-, 清淨妙智) が達成されないのである。【T25, 905a1-5】

以上のように、無二智の達成を妨げているものが十種の分別散乱であるとすれば、この十種の分別散乱を除去することが、そのまま、無二智を達成するための修習ということとなる。よつて、以下においては、如何にして十種の分別散乱を除去するかが述べられる。

PrPPS v. 20:

tān apākartum anyonyam vipakṣapratipakṣataḥ/

prajñāpāramitāgranthas te ca sampiṇḍya darśitāḥ//20//

G413b2/ P334a5/ N334b7f./ D293a7f./ C300a1f.:

de dag phan tshun gnyen po dang // mi mthun <sup>[D293b1]</sup> phyogs <sup>[N335a1]</sup> kysis bzlog pa'i phyir// shes rab pha rol  
phyin gzhung ste// de rnam kyang ni bsdu <sup>[C300a2]</sup> te bstan//

それら (十種の誤った構想という心を散乱させるもの) を、互いに、対抗されるもの (vipakṣa-, gnyen po, 所對治) と対抗するもの (pratipakṣa-, mi mthun phyogs, 能對治) とにすることにより、消除するために、般若波羅蜜多 [経] という典籍があり、そして、それら (十種の誤った構想という心を散乱させるもの) が、[そこに] まとめられ、示されているのである。【T25, 913a23f.】

PrPPSV G426b3-427a3/ P344b8-345a6/ N346a3-346b1/ D302a6-302b4/ C309a6-309b3:

yang gang gi tshes de dag gnyis su med pa'i (gnyis su med pa'i PDC; gnyis su med pa'i GN) <sup>[G426b4]</sup> ye shes (ye shes PNDC; yais G) kyi  
gegs byed pa (gegs byed pa DC; gegs GPN) yin pas de'i tshes brjod <sup>[P345a1]</sup> pa ni 'di <sup>[D302a7]</sup> yin te/ **de dag** ces bya ba la (la  
DC; ni GPN) sogs pa'o// **de dag** <sup>[N346a4]</sup> ces bya bas (ces bya bas DC; ces bya ba GPN) ni rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng  
ba 'dzin to// **bzlog** <sup>[C309a7]</sup> **pa'i phyir** zhes bya ba ni rnam par bsal ba'i <sup>[G426b5]</sup> phyir ro// (phyir ro// PNDC; phyiro// G)  
<sup>[P345a2]</sup> de ci zhis ce na/ de'i phyir/ (de'i phyir/ DC; de'i phyir GPN) **shes rab pha rol phyin gzhung ste//** (gzhung ste// DC;  
gzhung te GPN) zhes gsungs so// (gsungs so// PNDC; gsungso G) stong phrag <sup>[D302b1]</sup> brgya ba la <sup>[N346a5]</sup> sogs pa'i ming du  
byas pa (ming du byas pa DC; ming du byas pa'i GPN) bstan pa'i chos 'di thams cad (thams cad PNDC; tamd G) kyang don 'di lta bu  
<sup>[C309b1]</sup> dang ldan pa yin no// (yin no// PNDC; yino// G) de de <sup>[P345a3]</sup> dag (de de dag DC; de dag GPN) ji ltar <sup>[G426b6]</sup> bzlog ce na/  
de'i phyir brjod pa ni **phan tshun gnyen po dang mi mthun phyogs kysis** zhes bya ba'o// **phan tshun** zhes  
bya ba ni <sup>[N346a6]</sup> gcig la gcig go// (gcig go// D; gcig go// PNC; gcigo// G) **gnyen po dang** <sup>[D302b2]</sup> **mi mthun phyogs** zhes

bya ba phan tshun <sup>[P345a4]</sup> gnod bya gnod byed kyi <sup>[G427a1]</sup> dngos pos so// (dngos pos so// PNDC; dngos poso// G) <sup>[C309b2]</sup> 'di  
 ltar dngos po'i rnam par rtog pa ni dngos po med pa'i rnam par rtog pa'i gnyen po (rnam par rtog pa'i gnyen po DC; rnam par  
 rtogs pa GPN) dngos po med pa'i (med pa'i GNDC; med par P) rnam par rtog pa yang dngos <sup>[N346a7]</sup> po'i rnam par rtog pa'i  
 gnyen po zhes bya ba la sogs par <sup>[P345a5]</sup> sbyar bar <sup>[G427a2/ D302b3]</sup> bya'o// de dag kyang gang du (gang du PNDC;  
 gang G) bstan snyam na brjod pa ni de rnams kyang ni bsdu te (te DC; de GPN) <sup>[C309b3]</sup> bstan// zhes bya ba (bstan//  
 zhes bya ba DC; bstan ces bya ba GPN) ste/ yum shes rab kyi pha rol tu phyin mar ro// de rnams zhes bya ba <sup>[N346b1]</sup> ni  
 rnam par rtog pa'i rnam <sup>[P345a6]</sup> par g-yeng ba rnam pa bcu po'o// (bcu po'o// DC; bcu pa'o// GPN) bsdu te (bsdu te DC; bsdu  
 pa GPN) zhes bya ba ni <sup>[G427a3]</sup> yang dag par <sup>[D302b4]</sup> bsdu shing bzlums nas bstan pa zhes bya ba brjod pa yin  
 no// (yin no// PDC; yino// GN)

さらにまた、[以上のように、] 或る場合（心が愚者たちに属する場合）においては、それら [十種の誤った構想という心を散乱させるもの] は、無二智（gnyis su med pa'i ye shes, \*advayajñāna-, 無二智、把握されるものと把握するものという二つのものを有しないものである智）[の達成] を阻害しているもの（gegs byed pa, \*pratibandhana-, 不相應）であるので、その場合（心が愚者たちに属する場合）に際して [愚者たちに向けて] 言われるのが、以下のことである——「それら（十種の誤った構想という心を散乱させるもの）を」（de dag, tān, 彼）云々と。「それらを」（de dag, \*tān, 彼）と [いう語] は、[十種の誤った] 構想という心を散乱させるもの [のこと] を指している。「消除するために」（bzlog pa'i phyir, \*apākartum, 止息）とは、駆逐するために、[と] ということである。] それ（十種の誤った構想という心を散乱させるものを消除するもの）は何か、と [問うので、] このゆえに——「般若波羅蜜多 [経] という典籍が」（shes rab pha rol phyin gzhung ste, \*prajñāpāramitāgranthaḥ, 般若教）と説かれるのである。『十万 [頌]』（stong phrag brgya pa, \*satasāhasrikā, 十萬頌般若波羅蜜多）などと名付けられた（ming du byas pa, \*saṃjñita-）[般若波羅蜜多経] に説かれている、かの教え（chos, \*dharma-, 教）は、すべて、以上のような [十種の誤った構想という心を散乱させるものを消除するという] 目的を有している。それ（般若波羅蜜多経という典籍）は、それら（十種の誤った構想という心を散乱させるもの）を如何にして消除するのか、と [問うので、] このゆえに——「互いに、対抗されるものと対抗するものにとすることにより」（phan tshun gnyen po dang mi mthun phyogs kyis, \*anyonyam vipakṣapratipakṣataḥ, 互相為能所對治）と言うのである。「互いに」（phan tshun, \*anyonyam, 互相）とは、或るものに対して、もう一方のものが、[と] ということである。]「対抗されるもの（gnven po, \*vipakṣa-, 所對治）と対抗するもの（mi mthun phyogs, \*pratipakṣa-, 能……對治）と [にすることにより]」とは、互いに、打破されるもの（gnod bya, \*bādhya-）と打破するもの（gnod byed, \*bādha-

の関係にあるもの (dngos po, \*bhāva-) とすることにより、[ということである。] すなわち、[存在しないものを] 存在する [とみなす誤った] 構想 (dngos po'i rnam par rtog pa, \*bhāvavikalpa-) は、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (dngos po med pa'i rnam par rtog pa, \*abhāvavikalpa-) によって対抗されるもの (gnyen po, \*vipakṣa-) であり、一方、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (dngos po med pa'i rnam par rtog pa, \*abhāvavikalpa-) は、[存在しないものを] 存在する [とみなす誤った] 構想 (dngos po'i rnam par rtog pa, \*bhāvavikalpa-) によって対抗されるもの (gnyen po, \*vipakṣa-) である、云々というようにして結びつけられるべきである。それでは、それら (十種の誤った構想という心を散乱させるもの) は、どこに説かれているのか、と [問うので—] 「それら (十種の誤った構想という心を散乱させるもの) が、[そこに] まとめられ、示されている」 (de rnams kyang ni bsdus te bstan, te ca sampiṅdya darsītāh, 彼圓集所説) と言われる [が、それらが、まとめられ、示されているのは、すなわち、全ての仏陀を生み出す] 母たる般若波羅蜜多 [経] (yum shes rab kyi pha rol tu phyin ma, 佛母般若波羅蜜多教) の中においてである。「それらが」 (de rnams, \*te) とは、十種の [誤った] 構想という心を散乱させるものが、[ということである。] 「まとめられ」 (bsdus te, \*sampiṅdya, 圓集) とは、集められて、括られ、[ということであり]、「示されている」 (bstan pa, \*darsītāh, 説) とは、説かれている、[ということ] である。【T25, 905a5-20】

PrPPSV G427a3f./ P345a6f./ N346b1f./ D304b4/ C309b3f.:

'dis ni <sup>[C309b4]</sup> 'di skad ces de kho na (de kho na GPND; de kho na// C) mchog mkhyen pa'i (mkhyen pa'i GNDC; mkhyen pa'i P) de bzhin gshegs <sup>[P345a7]</sup> pas (de bzhin gshegs pas DC; de bzhin gshegs par GPN) <sup>[N346b2]</sup> yang dag par bsdus shing bzilums nas shes rab kyi pha rol tu phyin par bstan pa <sup>[G427a4]</sup> yin no (yin no DC; yin no/ P; yino// GN) zhes bya ba ni (zhes bya ba ni DC; zhes bya ba GPN) ngag gi don 'di bstan pa yin no// (yin no// PDC; yino// GN)

[つまり、] こ [の偈文 (v. 20)] によっては、以下のことが意図されているのである—— [すなわち、] 最上の真実をご存じの如来によって、[十種の誤った構想という心を散乱させるものが、] 集められて、括られ、般若波羅蜜多 [経] において、説かれているというのが、ここにおける [偈] 文の意味である。【T25, 905a20ff.】

以上の解説に従えば、十種の分別散乱そのものが、『般若波羅蜜多経』に述べられていると考えられていることが分かる。そして、それらを相互に打破されるものと打破するものとみなすこと——例えば、無相分別 (五蘊などは [世俗のものとしても] 存在しない [とみなす誤った構想]) が優勢な場合には、

有相分別（五蘊などは〔真実のものとしても〕存在する〔とみなす誤った構想〕）が、それを打破するものとなり、一方、有相分別（五蘊などは〔真実のものとしても〕存在する〔とみなす誤った構想〕）が優勢な場合には、無相分別（五蘊などは〔世俗のものとしても〕存在しない〔とみなす誤った構想〕）が、それを打破するものとなる——により、十種の分別散乱が解消される——言外に意図されていることを度外視すれば、無相分別は「五蘊などは存在しない」という構想であり、有相分別は「五蘊などは存在する」という構想であるから、両者は互いに打ち消し合うこととなる——と考えられていることも分かる。

しかるに、『般若波羅蜜多經』に述べられている經文自体が「分別散乱」を表しているという考え方は、伝統的な解釈と比べた場合、かなり、独創的である。例えば、陳那や三宝尊に先立つ学僧・世親(Vasubandhu-)の見解に従えば、『般若波羅蜜多經』に示される内容は、「無相分別」などの内容とは別個の真理を表すものあって、『般若波羅蜜多經』に示される内容は、「無相分別」などを一方的に打破するものである<sup>11</sup>。よって、『般若波羅蜜多經』に示される内容は、すべて、打破するもの（能退治）であって、打破されるもの（所退治）であることはないから、そこに示された内容が、互いに、打破するもの（能退治）と打破されるもの（所退治）となると考えられることはない。

陳那や三宝尊がこのような特殊な立場を取るのには、彼らがこの十種分別散乱に関する『般若波羅蜜多經』の經文を、一先ずは<sup>12</sup>、修習に特化されたものとして理解したこと<sup>13</sup>に起因すると考えられる。なるほど、修習に熟達した菩薩たちは、これらの經文により真理を見出すことが可能かもしれない。しかし、まだ「愚者」と呼ばれるような初学の菩薩たちが、これらの經文から豁然と真理に到達することは困難である。陳那や三宝尊は、このような初学の菩薩たちの修習にも堪えうるものとして『般若波羅蜜多經』は設計されていると考え、このような信念のもとに、初学の菩薩たちに向けて、一先ずは、以上のよう

<sup>11</sup> Ex. MSAvy 76, 8f.: [1] abhāvavikalpo yasya pratipakṣeṇāha — prajñāpāramitāyām iha bodhisattvo bodhisattva eva sann iti ([1] 無相分別〔無体分別〕が〔説かれたが、〕こ〔の分別〕に対抗するもの〔pratipakṣa-〕として『般若經』では〔以下のことが〕説かれている——〔「シャーリプットラ〔\*śāriputra-〕よ。〕菩薩〔bodhisattva-〕が、この〔般若波羅蜜多〔智慧の完成のための修行〕の〕中で〔実践すべきことを実践しているときに〕も、〔その菩薩は〕まさしく菩薩として存在しているが〕〔云々〕と)。

<sup>12</sup> 陳那と三宝尊は、この十種分別散乱に関する經文の作用をまずは修習に特化されたものとするが、これらの經文に真理を開顕する作用がないと考えているわけではない。これらの經文も、しかるべき修習を経た後には、真理を指し示すものとしても働くと考えられていることは、陳那の『仏母般若波羅蜜多円集要義論』(PrPPS)の第26偈とそれに相応する三宝尊の註釈(PrPPSV)により明らかとなる。

<sup>13</sup> PrPPSV P337b5f./ D296a6: bsgom pa ni nram par rtog pa'i nram par g-yeng ba nram pa bcu bsal bas rtog par bya'o// ([『般若波羅蜜多經』に説かれている] 修習とは、十種の〔誤った〕構想という〔心を〕散乱されるものを排除することを通して〔実践されるべきこと〔心を散乱させるものの排除〕を〕実践することである)。

に解説した傾向が強い。

### 3. [1] 無相分別散乱

以上のように修習に特化されたものとして『般若波羅蜜多經』を解説する場合、その教化の対象は初学の菩薩たちである。そして、その初学の菩薩たちに生起する「無相分別散乱」(\*abhāvavikalpavikṣepa-)は、「五蘊などは[世俗のものとしても]存在しない」とする分別である。すなわち、初学の菩薩たちは、無知のゆえに、あらゆるものを妄りに否定してしまうのである。陳那と三宝尊は、この無相分別散乱が、有相分別散乱(\*bhāvavikalpavikṣepa-)によって打破されると考えるが、彼らは、『般若波羅蜜多經』における「菩薩は[菩薩として]存在している」という経文こそが有相分別散乱を表し、そこにおける「菩薩」という語によって「世俗の五蘊」が提示されていると理解する。

PrPPS v. 21:

yad āha bodhisattvaḥ san<n> ity abhāvaprakalpanā<m>/

vikṣepam vikṣipan śāstā sāmṃvṛtaskandhadarśanāt//21//

G413b2f./ P334a5f./ N335a1f./ D293b1/ C300a2:

ston pas (ston pas GPDC; stan pas N) phung po kun rdzob pa// (kun rdzob pa// GPN; kun brjod pa// DC) gzigs phyir byang <sup>[P334a6]</sup>

sems dpa' yod ces// gang gsungs <sup>[G413b3/ N335a2]</sup> pa yis dngos med kyi// (med kyi// DC; med kyis// GPN) rtog pa'i (rtag pa'i DC;

rtogs pa'i GPN) g-yeng ba 'gog pa yin//

大師は、世俗の[五]蘊(sāmṃvṛtaskandha-, phung po kun rdzob pa, 世俗蘊)を提示することにより、[存在しないものを]存在しない[とみなす誤った]構想(abhāvaprakalpanā-, dngos med kyi rtog pa, 無相分別)という[心を]散乱させるものを除去するために、何であれ、「菩薩は[菩薩として]存在しているが」と仰ったのである。【T25, 913a25f.】

PrPPSV G427a4-427b1/ P345a7-345b4/ N346b2-346b6/ D302b5-303a1/ C309b4-310a1:

<sup>[D302b5]</sup> ji ltar bstan zhe na/ (zhe na/ DC; ce na/ GPN) brjod pa ni ston pas zhes bya ba la <sup>[P345a8]</sup> sogs <sup>[C309b5]</sup> pa'o//

'di la byang chub sems <sup>[N346b3]</sup> dpa' yod pas na byang chub sems dpa'o// (byang chub sems dpa'o// GPDC, byang chub sems dpa'

'o/ N) byang chub sems dpa' vod ces bya ba ni bdog pa zhes <sup>[G427a5]</sup> bya ba bstan pa 'dis so// (zhes bya ba bstan pa 'dis

so// DC; zhes bstan pa yin no// PN; zhes bstan pa yino// G) dngos med kyi rtog pa'i (rtog pa'i NDC; rtogs pa'i GP) g-yeng ba <sup>[P345b1]</sup> zhes

bya ba ni dngos <sup>[D302b6]</sup> po med pa'i rang bzhin du rtog pas na (rtog pas na DC; rtogs pas na GPN) dngos po med pa'i

[N346b4] **rtog** [C309b6] **pa'o**// de nyid ni **g-veng ba** yin te/ kun tu rmongs pa'i rgyu yin pa'i phyir ro// (phyir ro PDC; phyiro GN) ci zhig mdzad ce na/ **'gog** [G427a6] **pa vin** te/ sel ba [P345b2] yin no// (yin no// PDC; yino// GN) de su zhig gis she na/ **ston pas** te nyon mongs pa'i dgra las 'chos pa'i phyir dang / [N346b5] ngan 'gro'i [D302b7] 'jigs pa las skyob par byed pas (skyob par byed pas DC; skyob pa'i byed pas GPN) ston pa ste (ste GPDC; ste/ N) de bzhin [C309b7] gshegs pas so// (de bzhin gshegs pas so// PDC; de bzhin gshegs paso// GN) ji ltar zhe na/ **phung po kun** [P345b3] **rdzob gzigs** [G427b1] **phvir** ro// (gzigs phvir ro// DC; gzigs pa'i phvir ro// PN; gzit pa'i phyiro// G) kun rdzob par yod pa ni **kun rdzob pa'o**// **phung po** ni gzugs dang tshor ba la sogs [N346b6] pa ste/ de dag **gzigs pa'i phvir** te/ rtog pa'i rgyu'i phyir dngos [D303a1] po med pa'i rnam par rtog pa'i [P345b4] rnam par g-yeng ba sel bar [C310a1] mdzad pa yin no// (yin no// PNDC; yono// G)

[それでは、十種の誤った構想という心を散乱させるものは、『般若波羅蜜多經』において] どのように説かれているか、と [問うので——] 「**大師は**」(ston pa, \*sāstā, 師) 云々と言うのである。こ [の] 偈文 (v. 21) のうち、[「菩薩」(\*bodhisattva-) とは、] 覚っているもの (byang chub sems dpa', \*bodhi-, 菩提) であり、そして、それが生存するもの (yod pa, \*sattva-, 薩埵) である [から] 「**菩薩**」【持業積：同格限定複合語】である (\*bodhiś ca sa sattvaś ca bodhisattvaḥ, 菩提及薩埵、是即菩提薩埵)。「**菩薩は**【菩薩として】存在しているが<sup>14</sup>」(byang chub sems dpa' yod, \*bodhisattvaḥ san) と [言われるが、] これによって、[菩薩が] 現に存在する (bdog pa, \*samvidyamāna-, 有)、ということが説かれている。「**【存在するものを】存在しない【とみなす誤った】構想 (dngos med kvi rtog pa, \*abhāvaprakalpanā-, 無相分別) という【心を】散乱させるもの (g-veng ba, \*viksepa-) を**」と [言われるが、それは、] 存在するもの (dngos po, \*bhāva-) を存在しないというかたちで (dngos po med pa'i rang bzhin du, \*abhāvarūpeṇa, 色無相) [誤って] 構想する (rtoga pa, \*pra-√kṛp-, 分別) から、「**【存在するものを】存在しない【とみなす誤った】構想**」(dngos med kvi rtog pa, \*abhāvaprakalpanā-, 無相分別) [と呼ばれるの] である【依主積：同格限定複合語】。[そして、] まさしく、そ [の] 存在しないものを存在するとみなす誤った構想] こそが「**【心を】散乱させるもの**」(g-yeng ba, \*vikṣepa-) である【持業積：同格限定複合語】。[なぜなら、存在するものを存在しないとみなす誤った構想は、因果関係を] 知らないことを原因としている (kun tu rmongs pa'i rgyu yin pa, \*saṃmohakāraṇatva-, 癡所作性) からである。[それでは、存在するものを存在しないとみなす誤った構想という心を散乱させるものを] どうなさるのか、と [問うので——] 「**除去するために**」('gog pa yin, \*vikṣipan, 止息) [と言うのである。] 「除去する」とは、すなわち、] 取り除く (sel ba yin) [という意味である。] それ (存在するものを

<sup>14</sup> Cf. ASBh 137, 23: iha śāriputra bodhisattvo bodhisattva eva san ..... (シャーリプットラよ。こ [の] 智慧の完成のための修行) においても、菩薩は、まさしく菩薩として存在しているが.....) / PVSPRPS 37, 16f.

存在しないとみなす誤った構想という心を散乱させるものの除去)は、どなたが [なさるの] か、と [問うので——] 「**大師 (ston pa, \*śāstr-, 師) は**」 [と云うのである。] 煩惱という敵 (nyon mongs pa'i dgra, \*kleśavairin-, 諸煩惱冤) を殲滅なさる (chos pa, \*śāsana-, 善能調伏) がゆえに、そして、好ましくない生存へと趣く恐怖 (ngan 'dro'i 'jigs pa, \*durgatibhaya-, 惡趣等怖) からお救いになる (skyob par byed pa, \*trāṇa-, 能救度) がゆえに、「**大師**」 [と呼ばれるの] である。[そして、その大師とは、すなわち、] 如来 (de bzhin gshegs pa, \*tathāgata-, 如来) である。どのようにして [大師は、存在するものを存在しないとみなす誤った構想 (=①五蘊などを世俗のものとしてさえも存在しないとみなす誤った構想) という心を散乱させるものを除去なさるの] か、と [問うので——] 「**世俗の [五] 蘊を提示することにより**」 (phung po kun rdzob gzigs phyir, \*sāmvṛtaskandharśanāt, 説……世俗蘊) [と云うのである。] [真実のものとしては存在しないが、] 俗世間で存在する [と云われている] もの (kun rdzob par yod pa, \*sāmvṛtisat-, 世間) が、「**世俗の [もの]**」 (kun rdzob pa, \*sāmvṛta-, 世俗) である。「**[五] 蘊**」 (phung po, \*skandha-, 蘊) とは、物質 (gzugs, \*rūpa-, 色) や感受 (tshor ba, \*vedanā-, 受) などである。[大師は、] それら [五蘊] を「**提示すること (gzigs pa, \*darśana-, 説) により**」、すなわち、[それら五蘊を所化たちに] 理解させることにより (rtog pa'i rgyu'i phyir, \*anugamanavaśāt, 令了知……故)、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (=①五蘊などを世俗のものとしてさえも存在しないとみなす誤った構想) という [心を] 散乱させるものを [所化たちから] 取り除きなさるのである。【T25, 905a22-905b4】

PrPPSV G427b1ff./ P345b4f./ N346b6f./ D303a1f./ C310a1f.:

'di skad <sup>[G427b2]</sup> du las dang po pa'i byang chub sems dpa'i bsam ngor bcom ldan 'das kyis (bcom ldan 'das kyis PNDC; bcomdas kyis G) <sup>[N346b7]</sup> kun rdzob pa'i (kun rdzob pa'i DC; kun rdzob kyi GPN) phung por gzigs shing mkhyen nas chad par lta ba spangs pa'i (spangs pa'i GPND; spas pa'i C) <sup>[P345b5]</sup> don du dngos po med <sup>[D303a2]</sup> par rtog pa'i rnam par g-yeng ba sel bar mdzad pa yin no (yin no PDC; yino GN) zhes bya ba 'di <sup>[G427b3]</sup> brjod pa yin <sup>[C310a2]</sup> no// (yin no// PND; yin no/ C; yino// G)

以上のように、[ここにおいては、] 初学の菩薩 (las dang po'i byang chub sems dpa, \*ādikarmikabodhisattva-, 新發意菩薩) の願望に随応して (bsam ngor, \*abhiprāyānurodhena, 悲愍)、世尊 (bcom ldan 'das, \*bhagavat-, 世尊) は、世俗の [五] 蘊 (kun rdzob pa'i phung po, \*sāmvṛtaskandha-, 世俗諸蘊) を提示し、[所化たちに] 理解させて、[あらゆるものを] 存在しないとする見解 (chad par lta ba, \*ucchedadrṣṭi-, 斷見) を [所化たちに] 捨てさせるために、[存在しないものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (=①五蘊などを世俗のものとしてさえも存在しないとみなす誤った構想) という [心を] 散乱

(58)

させるものを「所化たちから」取り除きなさるのである、ということが説かれているのである。【T25, 905b5ff.】

初学の菩薩たちに対して修習に特化されたものとして『般若波羅蜜多經』を解説する場合、「菩薩は〔菩薩として〕存在している」という経文は、以上のごとく、「世俗の五蘊は存在している」という意味で教示される。

ただし、熟達した菩薩たちによって考察されるとき、「菩薩は〔菩薩として〕存在している」という経文は、「空性が存在している」という真理を指し示す。伝統的な世親の見解<sup>15</sup>に従えば、むしろ、この経文はそのように理解されるのがふさわしい。陳那と三宝尊も、この見解を否定するわけではなく、この経文が真理を指し示すものとしても働くと考え、後に述べられる有相分別散乱の段において、第 26 偈 (PrPPS) とそれに相応する三宝尊の註釈 (PrPPSV) により明らかとなる。もっとも、この際に、陳那によって暗示される存在は、空性ではなく、「無二智」であり、三宝尊は、これを「清淨智」と明言して憚らないが、以下に示す第 22 偈 (PrPPS) とそれに相応する註釈 (PrPPSV) は、その伏線であると理解される。というのも、『八千頌般若波羅蜜多經』(ASPrPS) の肯定文、とりわけ、三宝尊が例示する同經第 2 章の肯定文が、「世俗の五蘊」を肯定していると解釈することは難しく、それらによって暗示されるものは、少なくとも「空性」であり、場合によっては、「清淨心」であると理解される<sup>16</sup>からである。

PrPPS v. 22:

etenāṣṭasahasryādāv ādivākyāt pabhrty api/

ā samāpter niṣeddhavyā vidhinābhāvakalpanā//22//

G413b3/ P334a6f./ N335a2/ D293b1f./ C300a2f.:

'dis ni brgyad stong la <sup>[D293b2]</sup> sogs su// (sogs su/ PNDC; sogsu/ G) dang po'i ngag nas brtsams nas ni// rdzogs <sup>[C300a3]</sup>

pa'i <sup>[P334a7]</sup> bar ni sgrub pa yis// dngos med rtog pa dgag bya (dgag bya DC; 'gag bya GPN) yin// (yin// GPDC; yin/ N)

その [ように全ての仏陀を生み出す母たる般若波羅蜜多の内容を説く] とき (etena, 'dis ni)、『八千

<sup>15</sup> MSBh P178a3/ D149a6: byang chub sems dpa' nyid yod bzhin du zhes bya ba ste/ yod ces smos pas ni byang chub sems dpa' stong pa nyid kyi bdag nyid du yod pa'o// (「[菩薩は、この智慧の完成のための修行の中で、実践すべきことを実践しているときも、] まさしく菩薩として存在しているが」と。『般若經』は、)「存在している」と言って、菩薩が、空性という個人原理 (stong pa nyid kyi bdag, \*śūnyatāman-) を有して存在する [ことを示しているのである])。

<sup>16</sup> 註 18 参照。

『頌般若波羅蜜多經』などの中では、初めの文から始まって、終わりに至るまで、[存在するものを] 存在しない[とみなす誤った] 構想 (\*abhāvakalpanā, dngos med rtog pa, 無相分別) が、肯定 [文] によって否定される。【T25, 913a27f.】

PrPPSV G427b3-428a1/ P345b5-346a3/ N346b7-347a6/ D303a2-303a6/ C310a2-310a6:

shes rab kyi pha rol tu phyin ma yum (shes rab kyi pha rol tu phyin ma yum DC; shes rab kyi pha rol tu phyin pa yum GPN) gyi<sup>[N347a1]</sup> don  
brgyad stong par sbyar bar byed pas (sbyar bar byed pas DC; sbyor bar byed pas GPN) brjod pa ni/ **'dis ni**<sup>[P345b6]</sup> **brgyad stong**  
**la sogs su** (sogs su PDC; sogsu GN) zhes bya ba la sogs pa'o// (zhes bya ba la sogs pa'o// DC; zhes la sogs pa'o// GPN) **'dis ni** zhes bya  
bas ni yum gyi don<sup>[D303a3]</sup> bshad pas so// (bshad pas so// PNDC; bshad paso// G) **brgyad stong la sogs su** (sogs su PDC; sogsu  
GN) zhes<sup>[G427b4/ N347a2]</sup> bya ba la sogs pa'i (zhes bya ba la sogs pa'i DC; zhes bya ba'i sogs pa'i GPN) sgras ni (sgras ni DC; sgra ni GPN)  
stong phrag<sup>[C310a3]</sup> brgya pa (stong phrag brgya pa PNDC; stong phrag brgya ba G) la sogs pa yongs su bzung ngo// (yongs su bzung  
ngo// DC; yongs su gzung ngo// PN; yongsu gzungo// G)<sup>[P345b7]</sup> der/ (der/ DC; der GPN) **dang po'i ngag nas brtsams nas ni**// (ni// DC; ni  
GPN) zhes bya ba ni/ dang po'i ngag nas (ngag nas DC; ngag ni GPN) nye bar bzung nas so// (nye bar bzung nas so// PNDC; nye bar  
bzung naso// G) de la dang po'i ngag ni 'di yin te/ rab 'byor<sup>[N347a3/ D303a4]</sup> khyod shes rab kyi pha rol tu<sup>[G427b5]</sup> phyin  
pa las brtsams nas ji ltar byang<sup>[P345b8]</sup> chub sems dpa' sems<sup>[C310a4]</sup> dpa' chen po mams shes rab kyi pha rol tu  
phyin pa la (la D; las GPN) ji ltar nges par 'byung ba spobs par gyis shig ces bya ba'o// **rdzogs**<sup>[N347a4]</sup> **pa'i bar**  
**gyis** zhes bya ba rdzogs pa'i mthar<sup>[G427b6]</sup> thug pa<sup>[P346a1]</sup> ji srid pas<sup>[D303a5]</sup> so// (ji srid pas so// PNDC; ji srid paso// G)  
**dgag bva vin** zhes bya ba ni dngos po med pa'i mam par rtog pa bsal zhing<sup>[C310a5]</sup> bzlog par bya ba'o//  
**dngos med rtog pa** (rtog pa DC; rtogs pa GPN) zhes bya ba ni bar gyi tshig mi mngon par<sup>[N347a5]</sup> byas<sup>[P346a2]</sup> pas// (mi  
mngon par byas pas/ DC; mi mngon par byas pas GPN) dngos po med pa'i rang bzhin du rnam par rtog<sup>[G428a1]</sup> la (dngos po med pa'i rang  
bzhin du rnam par rtog la GPN; dngos po med pa'i rang bzhin du// rnam par rtog pa DC) **dngos med pa**// (dngos med pa// DC; dngos med rtog pa zhes pa  
GPN) zhes bya ba yin te/ chad pa'i rang bzhin<sup>[D303a6]</sup> zhes bya ba'i don to// ji ltar zhe na **sgrub pa vis**// (sgrub  
pa vis// DC; sgrub pa yis GPN) zhes bya ba (zhes bya ba DC; zhes bya ba ni GPN) sgrub pas<sup>[C310a6]</sup> na (sgrub pas na DC; bsgrubs pas ni PN; omit. G)  
bsgrub<sup>[P346a3]</sup> pa ste/ dngos<sup>[N347a6]</sup> po'i rang bzhin te (rang bzhin te PNDC; rang bzhin te/ G) bsgrub pa des so// (des so// PNDC;  
deso// G)

[全ての仏陀を生み出す] 母 (yum, \*mātr-, 本母) たる般若波羅蜜多 (shes rab kyi pha rol tu phyin ma, \*prajñāpāramitā-, 般若波羅蜜多) の内容 (don, \*artha-, 義理) は、[余す所無く] 『八千 [頌般若波羅蜜多經]』の中に収まっているがゆえに——「そのとき……『八千 [頌般若波羅蜜多經]』などの中で」 ('dis ni brgyad stong la sogs su, \*etenāstasahasryādaū, 此八千頌等) 云々と言うのである。「そのとき」

(dis ni, \*etena, 此) というのは、[全ての仏陀を生み出す] 母 [たる般若波羅蜜多] の内容を説くときには、[という意味である。] 『八千〔頌般若波羅蜜多經〕』など (**brgyad stong la sogs, \*astasaḥsry-ādi-**) の中では、云々という語には、『十万〔頌般若波羅蜜多經〕』などが含まれている。ここにおいて、「初めの文から始まって」(dang po'i ngag nas brtsams nas ni, ādivākyāt prabhṛty api) とは、初めの文からずっと (nye bar bzung nas, \*upādāya, 所成)、[という意味である。] そ [の『八千頌般若波羅蜜多經』] における初めの文とは、以下 [の通り] である——「スプーティ (rab 'byor, \*subhūti-, 須菩提) よ。菩薩 (byang chub sems dpa', \*bodhisattva-, 菩薩) 摩訶薩 (sems dpa' chen po, \*mahāsattva-, 摩訶薩) たちが、如何にして (ji ltar, \*yathā)、智慧の完成 (shes rab kyi pha rol tu phyin pa, \*prajñāpāramitā-, 般若波羅蜜多) へと向かって行くか (nges par 'bhyung ba, \*niryāyuh, 出生)。[その菩薩摩訶薩たちの] 智慧の完成 [のための修行] について (shes rab kyi pha rol tu phyin pa las brtsams nas, \*prajñāpāramitām ārabhya, 般若波羅蜜多應當發起) [の理解が] 君に (khyod, \*te, 汝) ひらめくように (spos par gyis shig, \*pratibhātu) <sup>17</sup>」と。「終わりに至るまで」(rdzogs pa'i bar gyis, \*ā samāteh, 至了畢) とは、終わりに到達するまで (rdzogs pa'i mthar thug pa, \*samātiparyantam, 乃至經末)、という意味である (ji srid pas, \*iti yāvat)。「否定される」(dgag bya yin, \*niśeddavyā, 止) とは、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (=②真実のものとしては清淨智さえも存在しないとみなす誤った構想) が斥けられ (bsal zhing, \*nirākṛtya, 止遣)、排除される (bzlog par bya ba, \*apākartavya-, 止)、[という意味である。] 「存在するものを 存在しない [とみなす誤った] 構想」(dngos med rtog pa, \*abhāvakaḥpanā-, 無相分別) とは、[複合語の] 中間の語を省略して (bar gyi tshing mi mngon par byas pas, \*madhyamapadalopam kṛtvā)、[このように言うのであって、具に言えば、] 存在するもの (dngos po, \*bhāva-) を存在しないというかたちで (med pa'i rang bzhin du, \*abhāvarupeṇa, 色無相) [誤って] 構想すること (rnam par rtog pa, \*vikalpa-) である【依主積：格限定複合語】。存在しないこと (dngos med pa, \*abhāva-) とは、斷滅しているというあり方 (chad pa'i rang bzhin, \*ucchedarūpa-, 斷有色) という意味である。[存在するものを存在しないとみなす誤った構想 (=②真実のものとしては清淨智さえも存在しないとみなす誤った構想) は、] 如何にして [否定されるの] か、と [問うので——] 「肯定 [文] によって」(sgrub pa yis, \*vidhinā, 説) と言うのである。肯定 [文] (sgrub pa, \*vidhi-, 法) によって、[存在しないと誤って構想されていたもの (=②真実のものとしては存在しないと誤って構想されていた

<sup>17</sup> ASPrPS (AAĀPrPVy) 22, 8ff.: pratibhātu te subhūte bodhisattvānām mahāsattvānām prajñāpāramitām ārabhya yathā bodhisattvā mahāsattvāḥ prajñāpāramitām niryāyur iti (スプーティよ。菩薩摩訶薩たちが如何にして般若波羅蜜多 (智慧の完成) へと向かって行くか。[その] 菩薩摩訶薩たちの般若波羅蜜多 (智慧の完成のための修行) について [の理解が] 君にひらめくように)。

清浄智)が]肯定される (bsgrub pa, \*vidhīyate/ \*vidheyam, 説)。すなわち、[存在しないと誤って構想されていたもの (=②真実のものとしては存在しないと誤って構想されていた清浄智)が]存在するというあり方を有する (dnogs po'i rang bzhin, \*bhāvarūpa-) ことが、それ (肯定 [文]) によって肯定される (bsgrub pa des, \*vidhīyate 'nena/ \*vidheyam anena, 此……説) のである。【T25, 905b7-23】

PrPPSV G428a1ff./ P346a3ff./ N347a6ff./ D303a6ff./ C310a6f.:

'di skad du (<sup>(di skad du GNDC; 'da skad du P)</sup>) tshig dang po nas [<sup>G428a2</sup>] brtsams te yongs su rdzogs pa'i (yongs su rdzogs pa'i PNDC; yongsu rdzogs pa'i G) bar gyis (bar gyis DC; bar gyi GPN) bsgrub pa'i ngag gang dag yin pa'i ngag (ngag DC; gang GPN) de nams su (de nams su PDC; de namsu GN) grub pa rjes su [<sup>D303a7</sup>] brjod par byed pa (rjes su brjod par byed pa PNDC; rjesu brjod par byed pa G) gang yin pa [<sup>P346a4</sup>] de ni 'di lta ste/ byang [<sup>N347a7</sup>] chub sems dpa' dang brgya [<sup>C310a7</sup>] byin dang shes rab kyi pha rol tu phyin pa zhes bya [<sup>G428a3</sup>] ba la 'di lta bu la sogs pa brjod pa de dag ni chad par lta ba sel ba lhur len par rig par bya'o zhes bya ba 'di brjod [<sup>P346a5</sup>] pa yin no// (yin no// PDC; yino// GN) 'dir ni (dir ni DC; 'dir GPN) bsgrub [<sup>N347b1</sup>] pa'i (bsgrub pa'i GDC; bsgrubs pa'i PN) ngag gi [<sup>D303b1</sup>] gnas rjes su brjod bzhin pa (rjes su brjod bzhin pa PND; rjesu brjod bzhin pa// G; rjes su brjod bzhin ma C) kho na sgrub pa'i sgras brjod pa yin no// (yin no// PDC; yino// GN)

このように、[『八千頌般若波羅蜜多經』などにおいては、] 初めの章句から始まって (thig dang po nas brtsams te, \*ādīpadāt prabhṛty api)、最後 [の章句] に至るまで (yongs su rdzogs pa'i bar gyis, \*ā parisamāteh) の間に、いくつかの肯定文 (bsgrub pa'i ngag, \*vidhivākya-) があるが、その [肯定] 文の中で、[存在しないと誤って構想されていたもの (=②真実のものとしては存在しないと誤って構想されていた清浄智)が存在するというあり方を有することの] 証明 (grub ba, \*sādhana-) が繰り返し言われているのである。以下 [に示す例など] は、それ (存在しないと誤って構想されているものが存在するというあり方を有することの証明) である。[例えば、『八千頌般若波羅蜜多經』の第 2 章においては、] 菩薩 [スプーティ] と帝釈天 (brgya byin, \*śakra-, 帝釋天主上首) とが、般若波羅蜜多 (shes rab kyi pha rol tu phyin pa, \*prajñāpāramitā-) とは斯く斯く云々のものであると語り合っている<sup>18</sup>が、それ

<sup>18</sup> 『八千頌般若波羅蜜多經』(ASPrPS) の第 2 章においては、その後半部において、それまで否定されてきた五蘊などが、一転して肯定され、以下のように述べられる。ASPrPS (AAĀPrPVy) 174, 10-175, 10: evam ukte śakro devānām idra āyusmantam suhūtiṃ edad avocāt — mahāpāramiteyam ārya subhūte yad uta prajñāpāraitā. apramāṇapāramiteyam ..... aparimāṇapāramiteyam ..... anantapāramiteyam ..... sthaviṛaḥ subhūtir āha — evam etat kauśikaivam etat ..... tat kasya hetoḥ. rūpamahattayā hi kauśika mahāpāramiteyaṃ yad uta prajñāpāramitā ..... evam vijñānānantatayā kauśikānantapāramiteyaṃ yad uta prajñāpāramitā (以上のように言われたとき、神々の主シャクラは、スプーティ長老に以下のように言った——聖者スプーティよ。或るものが般若波羅蜜多 (完成した智慧) である場合は、それは偉大な完全性です。……それは量ることので

ら[の文]は、「存在しているものを」存在しないものであるとする見解(chad par lta ba, \*ucchedadṛṣṭi-, 斷見)を斥けることに専念すべきであると知られなければならない」ということを説いているのである。[つまり、] ここにおいては、「肯定[文]」(sgrub pa, \*vidhi-)という語によって、[[『八千頌般若波羅蜜多經』などにおいては、存在しないと誤って構想されているものが] 肯定されるという指摘 (ngag gi gnas, \*vākyasthā-, 語言分位) が繰り返し言われている、ということが説かれているのである。【T25, 905b23-27】

きない完全性です。……計ることのできない完全性です。限りない完全性です、[と。] 上座のスピーティは、[これに対して、以下のように] 言った——カウシカよ。そのとおりです。そのとおりです。……それはなぜか[と云えば、] カウシカよ。なぜなら、或るものが般若波羅蜜多(完成した智慧)である場合、それは、物質が偉大であることによって、偉大な完全性であるからです。……カウシカよ。同様に、或るものが般若波羅蜜多(完成した智慧)である場合、それは、認識が限りないことによって、限りない完全性であるからです、[と]。そして、このように肯定されるものの中には、以下のように、有情(sattva-)の存在も含まれている。ASPrPS (AAĀPrPVy) 176, 9-177, 22: sattvānantatayā kauśikānantapāramiteyaṃ yad uta prajñāpāramitā ..... punar aparāṃ kauśika sattvo 'nanto 'paryantaḥ ..... tat kasya hetoḥ. na hi sattvasyānto vā madhyam vā paryavasānam vopalabhyate. tasmāt kauśika sattvānantatayā anantapāramiteyaṃ yad uta prajñāpāramitā (カウシカよ。或るものが般若波羅蜜多(完成した智慧)である場合、それは、有情が限りないことによって、限りない完全性なのです。……さらにまた、カウシカよ。有情には、限りがなく、辺際がありません……。それはなぜか[と云えば、] なぜなら、有情には、はじめも、あるいは、中間も、あるいは、終わりも、知覚されないからです。カウシカよ。このゆえに、或るものが般若波羅蜜多(完成した智慧)である場合、それは、有情が限りないことによって、限りない完全性なのです)。さらに、その有情は、以下のように、元より清浄なものである(ādisuddhatva-)とまで述べられる。ASPrPS (AAĀPrPVy) 180, 1-13: api nu tatra kaścit sattva utpanno vā utpadyate vā niruddho vā nirotsyate vā niruddhyate vā ..... śakra āha — no hīdam ārya subhūte ..... tat kasya hetoḥ. ādisuddhatvād ādiparisuddhatvāt sattvasya (実に、その場合には、何らかの有情が、[過去に] 生じたのですか。あるいは、[未来に] 生じるのですか。あるいは、[現在、] 生じているのですか。あるいは、[過去に] 滅したのですか。あるいは、[未来に] 滅するのですか。あるいは、[現在、] 滅するのですか、[と。] シャクラは、[これに対して、以下のように] 言った——聖者スピーティよ。実に、そうではありません。……それはなぜか[と云えば、] 有情は、初めから清浄であるからであり、初めから完全に清浄であるからです、[と])。以上で言われる「完全性」(pāramitā-)は、物質ないし認識、あるいは、有情における「空性」(śūnyatā-)として解釈される。また、俱相分別散乱(増益分別, adhyāropavikalpa-)が取り除かれたときには、世間で言われる物質ないし認識(あるいは、有情)は、言語上の虚構にすぎず、実際には存在しないもので、最高の智によって知られる物質ないし認識(あるいは、有情)の本体(勝義の自相)は、世間で言われる「空性」(世俗の共相)であることが明らかとなり、一方で、世間で言われる「空性」(世俗の共相)は、最高の智によって知られる自相(勝義の自相)であることが明らかとなるとされる(拙稿[2017]参照)。よって、ここで有情が清浄であると説かれる所以も、有情の本体(勝義の自相)である「空性」が清浄であることに由来すると理解される。

PrPPS v. 23:

hetuvākyaṅi naitāni kṛtyamātraṃ tu sūcyate/

brahmajālādīsūtreṣu jñeyāḥ sarvatra yuktayaḥ//23//

G413b3f/ P334a7/ N335a3/ D293b2/ C300a3:

[N335a3] 'di dag gtan tshigs ngag [G413b4] min te// (min te// DC; yin te// GPN) bya ba tsam zhig smos pa yin// rigs pa tshangs pa'i dra ba sog// mdo kun tu (kun tu GPN; kun du DC) ni shes par bya//

[しかるに、] これら [の「菩薩は菩薩として存在しているが」などという肯定文] は、論証因を示す文 (hetuvākya-, gtan tshigs ngag, 因言) ではない。そうではなくて (tu)、[存在するものを存在しないものとする見解の拒斥という] 為されるべき事だけ (kṛtyamātra-, bya ba tsam zhig, 唯……事相) が [世尊によって] 見事に説かれているのである。[諸々の] 論理的根拠 (yukti-, rigs pa, 如理) は、『梵網 [経]』などのあらゆる経典において知られる。【T25, 913a29f.】

PrPPSV G428a3-428b2/ P346a5-346b3/ N347b1-347b6/ D303b1-303b5/ C310b1-310b4:

sgrub pa (sgrub pa DC; bsgrub pa GPN) [G428a4] dngos po med pa'i mam par rtog pa sel bar byed pa yin no (yin no PNDC; yino// G) zhes bya bar rigs pa (rigs pa DC; rig pa GPN) [P346a6] gang gis (gang gis GPN; gang gi DC) nges she na/ brjod pa ni/ (ni/ DC; ni GPN) 'di dag gtan tshigs dag (gtan tshigs dag DC; gtan tshigs dang dag GPN) [N347b2] min te// (min te// DC; min te/ N; min te GP) zhes bya ba la sog pa'o// gtan tshigs kyi sgras ni rigs [D303b2] pa brjod pa yin te/ 'di [G428a5] dag rigs pa'i ngag ma vin [C310b2] zhing sgrub byed [P346a7] kyi ngag ni ma vin gyi/ 'on kyang bva ba tsam zhig smos pa vin te/ ngag 'di dag gis kyang ('di dag gis kyang DC; 'di dag gis GPN) bva ba ste bya [N347b3] bar 'os shing rjes su bsgrub par bya ba (rjes su bsgrub par bya ba PDC; rjes su bsgrub par bya ba GN) smos pa vin te/ brjod pa (brjod pa PNDC; brjad pa yan ta/ brjoda pa G) yin no// (yin no// PDC; yino// GN) gal te [G428a6] don [P346a8] rigs pas (rigs pas GPDC; rigs pas/ N) 'thad pa ma yin [D303b3] na/ 'o na ji ltar rtog pa don du byed pa mams yongs su tshim [C310b3] par byed (yongs su tshim par byed PNDC; yongsu tshig par byed G) ce na/ des na brjod pa ni/ rigs pa tshangs pa'i dra ba [N347b4] sogs// zhes bya ba (sogs// zhes bya ba DC; sog pa bya ba GPN) la sog pa'o// tshangs pa'i [P346b1] dra ba la sog pa'i mdo gang dag (mdo gang dag DC; mdo dag GPN) yin [G428b1] pa ste/ (yin pa ste/ PNDC; yin ste/ G) sogs pa'i sgras ni stug po'i dkyil 'khor la sog [D303b4] pa mams gzung ste/ de (de PNDC; de dag G) thams cad du ni (thams cad du ni DC; thams cad du GPN) bcom ldan 'das rang nyid kyi rigs [C310b4] pas (bcom ldan 'das rang nyid kyi rigs pas DC; bcom ldan 'das kyi rigs pas PN; bcomdas kyi rig pas G) gsungs pa [N347b5] yin no// (yin no// PDC; yino// GN) kun tu (kun tu GPN; kun du DC) zhes bya ba ni [P346b2] rnam pa 'di lta bu'i don bstan par bya ba mams su'o// (mams su'o// PDC; mamsu'o// GN) [G428b2] shes par bva zhes bya ba (shes par bya zhes bya ba DC; shes par bya ba GPN) ni rig par bya ba'o// rigs pa (rigs pa GPN; rig pa DC)

zhes bya ba ni tshad ma'o// 'dir ni nges par gyur ba'i<sup>[D303b5]</sup> don nyid mngon par zhen pa (mngon par zhen pa DC; mngon par bzhed pa GPN) yin no (yin no PDC; yino G; yino/ N) zhes bya ba ni<sup>[P346b3]</sup> ngag<sup>[N347b6]</sup> gi don to//

肯定 [文] (sgrub pa, \*vidhi-) が、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想 (dngos po med pa'i mnam par rtog pa, \*abhāvavikalpa-) を否定していると [言われたが、存在するものを存在しないとみなす誤った構想の否定は、] 如何なる論理的根拠 (rigs pa, \*yukti-) によって確定されるのか、と [問うので——] 「これら [の「菩薩は菩薩として存在しているが」などという肯定文] は、論証因を示す文ではない」 ('di dag gtan tshigs dan min te, \*hetuvākyāni naitāni, 因言不如是) 云々と言うのである。「論証因」 (gtan tshigs, \*hetu-, 因) という語によって、論理的根拠 (rigs pa, \*yukti-, 道理) が説かれている。これら [の「菩薩は菩薩として存在しているが」などという肯定文] は、論理的根拠を示す文ではない。[すなわち、証明されるべきものを] 証明するもの (sgrub byed, \*sādhana-, 成就) を示す文ではない。むしろ、「そうではなくて、[存在するものを存在しないものとする見解の拒斥という] 為されるべき事だけが [世尊によって] 見事に説かれているのである」 (bya ba tsaṃ zhiḡ smos pa yin, \*krtyamātram tu sūcyate, 此唯説事相)。[すなわち、] これら [の「菩薩は菩薩として存在しているが」などという肯定] 文によっては、[存在するものを存在しないものとする見解の拒斥という] 為されるべき事 (bya ba, \*krtya-, 事) が、すなわち、為すにふさわしく (bya bar 'os, \*karaṅārha-, 所作事)、実行されるべきこと (rjes su bsgrub par bya ba, \*anuṣṭheya-, 所修事) が、見事に説かれている (smos pa yin, \*sūcyate, 説)、すなわち、見事に言われているのである。[しかしながら、] もし、[これらの「菩薩は菩薩として存在しているが」などという肯定文の] 内容 (don, \*artha-, 義) が論理的根拠 (rigs pa, \*yukti-, 道理) に適合していない ('thad pa ma yin, \*anupapadyamāna-, 和合) としたならば、その場合には、論理的考察を希求する人 (rtog pa don du byed pa, \*tarkārthin-, 有智者) たちは、どうして満足しようか (yongsu su tshim par byed, \*pari-√tuṣ-, 生歡喜)。[いや、満足すまい]、と [言うので、] この故に—— 「諸々の 論理的根拠は、『梵網経』など [の 經典において]」 (rigs pa tshangs pa'i dra ba sogs, \*brahmajālādi.....ṣu ..... yuktayah, 梵網等……中……如理) 云々と言うのである。「梵網<sup>19</sup> など」 (thangs pa'i dra ba la sogs pa, \*brahmajālādi-, 梵網等) [と 言われるもの] は 「經典」 (mdo,

<sup>19</sup> 陳那、あるいは、三宝尊は、『梵網経』において、存在するものを存在しないとする見解 (\*ucchedadrṣṭi-, 断見) ——ここでは、特に、あらゆるものを妄りに否定し、①五蘊などを世俗のものとしてさえも存在しないとみなす見解が意図されていると考えられる——を否定するための論理的根拠 (\*yukti-) が述べられていると言う。しかしながら、『梵網経』のいずれの章句を指して、論理的根拠とみなすかについては、審らかに言われていない。以下に示す例は、「接触している [根・境・識の三] 処」 (phassāyatana-, \*sparsāyatana-) を原因として、最終的に、「苦」 (dukkha-, \*duḡkha-) という結果が生起することを明かす

\*sūtra-, 諸經)である。「など」(sogs pa, \*ādi-, 等)という語によって『密嚴[經]<sup>20</sup>』(stug po'i dkyil 'khor, \*ghanamaṇḍala-/ \*ghanavyūha-, 雲輪)など[の諸々の經典]が言われている。これらの全て[の經典]において、世尊は、自ら(rang byid, \*svayam, 自)、論理的根拠(rigs pa, \*yukti-, 如實理)に基づいて、[存在しないと誤って構想されているものが存在するというあり方を有することの論証を]お説きになっているのである。「あらゆる[經典]において」(kun tu, \*sarvatra, 於一切處)とは、この種の内容が説かれる[あらゆる經典]において、[という意味である。]「知られる」(shes par bya, \*jñeyāh, 知)とは、理解される、[という意味である。]「論理的根拠」(rig pa, \*yukti-, 如理)とは、妥当な認識手段(tshad ma, \*pramāṇa-, 如量)である。ここにおける[偈]文の意味は、[論理的根拠

教説であるが、このような因果説を指して、論理的根拠とみなしているものか。DN 1, 45, 9-21: ye pi samaṇabrahmaṇā pubbantakappikā ca aparantakappikā ca pubbantāparantakappikā pubbantāparantānūdiṭṭhino pubbantāparantaṃ ārabha anekavihiṭāni adhivuttipadāni abhivadanti dvāsaṭṭhiyā vatthūhi, sabbe te chahi phassāyatanehi phussa phussa paṭisaṃvedenti. tesam vedanāpaccayā taṇhā, taṇhāpaccayā upādānaṃ, upādāna-paccayā bhavo, bhavapaccayā jāti, jātipaccayā jarāmaraṇaṃ sokaparivedadukkhadomanass'upāyāsā sambhavanti. yato kho, bhikkave, bhikkhu channaṃ phassāyatanānaṃ saṃudayaṇ ca atthagamaṇ ca assādaṇ ca ādīnavaṇ ca nissaraṇaṇ ca yathābhūtaṃ pajānāti, ayam imehi sabbhe'eva uttaritaraṃ pajānāti (また、或る沙門や婆羅門は、前際について[誤って]思考することにより、あるいは、後際について[誤って]思考することにより、あるいは、前際と後際とについて[誤って]思考することにより、前際や後際に関する[誤った]見解を持ち、前際や後際について、多数、用意された浮説を語るが、彼等は、みな、六つの接触している[根・境・識の三]処によって接触し、接触して、[苦や楽を]感受する。[そして、]彼等においては、感受を条件として、渴愛(衝動的欲求)が[生じ、]渴愛を条件として、取(執著)が[生じ、]取を条件として、有(生存の条件となる行為)が[生じ、]有を条件として、生(生まれること)が[生じ、]生を条件として、老死が、[すなわち、]悩みや悲しみや苦しみや憂いが生ずるのである。比丘たちよ。実に、比丘は、[この]六つの接触している[根・境・識の三]処に関する因縁と愛味と過患と出離を如実に知るがゆえに、[比丘は、]こ[の因果に関する見解]が、それらすべて[の見解]よりもずっと優れていることを知るのである)。

<sup>20</sup> 三宝尊は、『密嚴經』において、存在するものを存在しないと見解(\*ucchedadrṣṭi-, 断見)——ここでは、特に、智慧が未熟なゆえに、②真実のものとしては清淨智さえも存在しないとみなす見解が意図されていると考えられる——を否定するための論理的根拠(\*yukti-)が述べられていると言う。しかしながら、『密嚴經』のいずれの章句を指して、論理的根拠とみなすかについては、やはり、審らかに言われていない。以下に示す例は、外界対象が存在せず、ただ認識のみが存在することを示す教説であるが、このような唯識説を指して、論理的根拠とみなしているものか。『大乘密嚴經』(地婆訶羅訳) T16, 747a28f.: 心識之所行一切諸境界、所見雖差別、但識、無有境。; 『大乘密嚴經』(不空訳) T16, 776a24f.: 心識之所緣一切外境界、見種種差別、無境、但唯心。; GhVS P62b4f./D55b4: ji snyed yul yod ci yang rung // sems dang mam shes spyod yul <sup>[P62b5]</sup> du// sna tshogs snang ba de dag kyang // rnam shes yin te yul med do// (何であれ、対象(yul, \*viṣaya-)が、如何ほど存在し、心や認識の対象領域(spyod yul, \*gocara-)として種々に顕現しようとも、それらもまた、[すべて、]認識であって、対象が存在するわけではないのである)。

(66)

によって] 確定されている (nges par gyur ba, \*niścita-) 事柄は、執筆されたもの (mngon par zhen pa, \*abhiniviṣṭa-/\*adhyavasita-) である<sup>21</sup>ということである。【T25, 905b27-905c14】

#### 4. [2-1] 有相分別散乱

同じく、修習に特化されたものとして『般若波羅蜜多經』を解説する場合、教化対象の初学の菩薩たちに生起する「有相分別散乱」(\*bhāvavikalpavikṣepa)は、「五蘊などは[真実のものとしても]存在する」という分別である。陳那と三宝尊は、この有相分別散乱は、無相分別散乱(\*abhāvavikalpavikṣepa)によって打破されると考えるが、彼らは、『般若波羅蜜多經』における「[菩薩は]菩薩を見ない」という経文こそが有相分別散乱を表すと理解する。

PrPPS v. 24:

bodhisattvaṃ na paśyāmi aham ityādivistaraiḥ/

nirākaroti bhagavān bhāvasaṃkalpavibhramam//24//

G413b4f./ P334a7f./ N335a3f./ D293b2f./ C300a3f.:

bdag <sup>[P334a8]</sup>gis byang <sup>[D293b3]</sup>chub sems dpa' ni// ma mthong <sup>[C300a4]</sup>zhes sogs rgyas <sup>[N335a4]</sup>rnams kyis// bcom

ldan dngos po kun rtog gi// <sub>(gü/ D; gü/ GPNC)</sub>'khrul <sup>[G413b5]</sup>pa 'gog par mdzad pa yin//

「私は、菩薩を見ない」云々と広説して、世尊は、[存在しないものを]存在する[とみなす誤った]思考という迷乱を否定なさっているのである。【T25, 913b2f.】

PrPPSV G428b2-429a2/ P346b3-347a1/ N347b6-348a5/ D303b5-304a3/ C310b4-311a2:

des na de <sup>[C310b5]</sup>ltar dngos po med pa'i rnam par rtog pa'i rnam <sup>[G428b3]</sup>par g-yeng ba bsal bas dngos po'i rnam

par rtog pa'i dgra zla nyid du bstan pa yin no// <sub>(yin no// PDC; yino// GN)</sub> da ni <sub>(da ni DC; de ni GPN)</sub> yang de nyid 'gal ba'i

<sup>21</sup> Cf. PVin II, 46, 5-8: tad etad **atasmimṣ tadgrahād bhrāntīr api sambandhataḥ pramā**// (k. 1) svapratibhāse 'narthe 'rthādhyavasāyena pravartanād **bhrāntīr apy arthasambandhena tadavyabhicārāt pramāṇam** (それゆえに、それ(推論)は、それでないものをそれと捉えるがゆえに、迷乱[した知]であったとしても、[対象と]結びついているがゆえに、妥当な認識である)。[k. 1] [推論 (anumāna-) は、認識 それ自身の顕現という [外界の] 対象でないものを [外界の] 対象 [である] と執筆することによって [認識している者を外界の対象へと] 向かわせるがゆえに、迷乱[した知]であったとしても、[外界の] 対象と結びついていることによって、[認識している者を] その[外界の対象] へと逸脱することなく導くがゆえに、[推論は、] 妥当な認識である)。

sgo nas ston <sup>[P346b4]</sup> par byed pas (ston par byed pas DC; ston par byed GPN) brjod pa ni/ bdag gis <sup>[D303b6]</sup> byang chub <sup>[N347b7]</sup>  
sems dpa' ni// (ni// DC; ni GPN) ma mthong zhes sogs rgyas rnams <sup>[G428b4/ C310b6]</sup> kvis// (rgyas rnams kyis// DC; rgyas rnams  
kyis GPN) zhes bya ba la sogs pa ste/ byang chub sems dpa' ni ma mthong zhes bya bas ni yum shes rab kyi  
pha <sup>[P346b5]</sup> rol tu phyin pa'i don nye bar 'gog pa'o// las dang po pa rnams kyi byang chub sems <sup>[N348a1]</sup> dpa'i  
rang bzhin du (rang bzhin du N; rang bzhin du/ GPC; rang bzhin du// D) lhag par zhen <sup>[D303b7]</sup> par <sup>[G428b5]</sup> byas pa ni de kho na  
nyid du ma dmigs pa'o// bdag <sup>[C310b7]</sup> gis zhes bya ba ni rang <sup>[P346b6]</sup> nyid ston par byed pa'o// (ston par byed pa'o//  
DC; stong par byed pa'o// GPN) byang chub sems dpa' ma mthong zhes bya ba la sogs <sup>[N348a2]</sup> pa'i tshig mang po  
rgyas rnams kvis te/ 'di lta ste/ byang chub sems dpa' dang de lta <sup>[G428b6]</sup> bu'i rang bzhin gyis/ (rang bzhin gyis/ DC;  
rang bzhin gyi/ GPN) shes rab <sup>[P346b7]</sup> kyi pha <sup>[D304a1]</sup> rol tu phyin pa ma mthong ngo (mthong ngo PNDC; mthongo G) zhes bya  
ba la sogs pa de lta bu la <sup>[C311a1]</sup> sogs pa rnams kyis so// (kyis so// PDC; kyiso// GN) bstan pa 'dis kyang <sup>[N348a3]</sup> dngos  
por kun rtog gi (rtog gi PNDC; rtogi G) 'khrul pa 'gog par mdzad pa yin no// (yin no// PNDC; yino// G) dngos po zhes bya  
<sup>[P346b8]</sup> ba ni gzugs (gzugs PNDC; gzhut G) <sup>[G429a1]</sup> la sogs pa'o// de'i kun tu (kun tu GPNC; kun du D) rtog pa (rtog pa GDC; rtogs pa  
PN) ni dngos por <sup>[D304a2]</sup> kun tu rtog pa (rtog pa NDC; rtogs pa GP) ste/ ji lta ba ma yin pa'i don (don DC; don la don GPN) ji lta  
ba nyid du lhag <sup>[N348a3/ C311a2]</sup> par zhen pa'o// de nyid ni 'khrul pa rnam par 'khrul pa (nam par 'khrul pa PNDC; nam  
par 'khrul ba G) yin <sup>[P347a1]</sup> te/ don dam <sup>[G429a2]</sup> par brdzun pa (brdzun pa DC; bstan pa GPN) nyid yin pa'i phyir ro// (phyir ro// PNDC;  
phyiro// G) sel bar byed pa de (sel bar byed pa de DC; sel bar byed pa GPN) su zhig yin zhe na/ bcom ldan 'das te/ (bcom ldan 'das  
te/ PND; bcom ldan 'das te/ G; bcom ldan 'das te C) bcom ldan 'das zhes bya ba ni <sup>[D304a3]</sup> de bzhin gshegs <sup>[N348a5]</sup> pa'o// (de bzhin  
gshegs pa'o// GPDC; de bzhin gsheg pa'o// N)

而して、以上のように、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤った] 構想という [心を] 散乱  
させるもの (dngos po med pa'i rnam par rtog pa'i rnam par g-yeng ba, \*abhāvaikalpavikṣepa-, 無相分別)  
が否定されることにより、[それに] 拮抗するもの (dgra zla, \*pratidvandva-) とし、[もう一方の、  
存在しないものを] 存在する [とみなす誤った] 構想 (dngos po'i rnam par rtog pa, \*bhāvaikalpa-) が  
顕示されることとなる。しかるに、今や、まさにそ [の、存在しないものを存在するとみなす誤っ  
た構想] をも斥けるために説いて——「私は、菩薩を見ない<sup>22</sup> 云々と広説して」(bdag gis byang chub

<sup>22</sup> Cf. ASBh 137, 23-138, 2: bodhisattvaṃ na samanupaśyati, bodhisattvanāma na samanupaśyati, prajñāpāramitāṃ na samanupaśyati, bodhiṃ na samanupaśyati, caratīti na samanupaśyati, na caratīti na samanupaśyati ([その菩薩は、] 菩薩を観察せず、菩薩という名称 (nāman-) を観察せず、完成した智慧 (prajñāpāramitā-) を観察せず、覚り (bodhi-) を観察せず、[智慧の完成のための修行において実践すべきことを] 実践しているということを観察せず、[智慧の完成のための修行において実践すべきことを] 実践していないということを観察しない) ./ ŚSPrP 118, 10-15/ PVSPrPS 37, 17-20.

sems dpa' ni ma mthong zhes sogs rgyas nmams kyis, \*bodhisattvaṃ na paśyāmi aham ityādivistaraiḥ, 菩薩我不見而此等廣大) 云々と言うのである。「菩薩を見ない」(byang chub sems dpa' ni ma mthong, \*bodhisattvaṃ na paśyāmi) という [文] は、[この直前に説かれた「菩薩は菩薩として存在しているが」という、全ての仏陀を生み出す] 母たる般若波羅蜜多の内容を掻き乱す (nye bar 'gog pa, \*uparodh-ayati) [がごとくである。][しかし、この文は、] 初学の菩薩 (las dang po pa nmams kyi byang chub sems dpa', \*ādikarmikabodhisattva-) が個別のあり方を有するもの (rang bzhin, \*svabhāva-) として錯誤しているもの (lhag par zhen par byas pa, \*adhyavasita-) を、[菩薩は、] 真実 (de kho na nyid, \*tattva-, 實性) として [存在するものと] は認識しない、[という意味で説かれている。]「私は」(bdag gis, \*aham) というのは、[その菩薩] 自身によって (rang nyid, \*svayam, 己) 説かれている [ことを表す。]「菩薩を見ない」云々と (zhes bya ba la sog pa, \*ityādi-, 此等) 数多の章句を「広説して」(rgyas nmams kyis, \*vistaraiḥ, 廣大) とは、すなわち、[「そのような菩薩という本性を有するものとして」菩薩を「見ず」、また、そのような「菩薩という」本性を有するものとして完成した智慧 (shes rab kyi pha rol tu phyin pa, \*prajñāpāramitā-, 般若波羅蜜多) を見ない<sup>23</sup>」云々ということ (zhes bya ba la sogs pa de lta bu la sogs pa nmams kyis, \*ityevamāyādibhiḥ) によって、[という意味である。]そして、このように説くことによって、「存在しないものを」存在する「とみなす誤った」思考という迷乱を否定なさっているのである (dngos por kun rtog gi 'khul pa 'gog par mdzad pa yin, \*nirākaroti ..... bhāvasaṃkalpavibhramam, 令止遣有相分別散亂)。「存在する」「とみなされている」もの (dngos po, \*bhāva-, 相) とは、物質などである。[存在しないものを] それ (存在するもの) と [誤って] 思考するもの (kun du rtog pa, \*saṃkalpa-, 分別) が、「存在しないものを」存在する「とみなす誤った」思考 (dngos por kun tu rtog pa, \*bhāvasaṃkalpa-, 於……相中有所分別) である。[すなわち、] そのようなあり方では存在しない事物をそのようなあり方で存在すると錯誤するものである。[そして、] そ [の、存在しないものを存在するとみなす誤った思考] こそが、惑い ('khrul pa, \*bhrānti-, 疑惑) であり、「迷乱」(mam par 'khul pa, \*vibhrama-, 動亂) である【持業釈：同格限定複合語】。[何となれば、存在しないものを存在するとみなす誤った思考は、存在しないものを] 最高 [の智] の対象 (don dam pa, \*paramārtha-, 勝義) として [存在するかの] ように思わせて [誑かす] からである。誰が、そ [の迷乱] を否定するのか、と [問うので——]「世尊は」(bcom ldan 'das, \*bhagavān) [と言うのである。]「世尊」とは、如来 (de bzhin gshegs pa, \*tathāgataḥ) [のこと] である。【T25, 905c14-29】

<sup>23</sup> 註 22 参照。

PrPPS v. 25:

yan na paśyati nāmāpi gocaram ca kriyām tathā/

skandhāś ca sarvatas tena bodhisattvam na paśyati//25//

G413b5/ P334a8f./ N335a4f./ D293b3f./ C300a4:

gang phyir ming yang ma mthong zhing // spyod yul dang ni <sup>[P334b1]</sup> bya ba dang // phung po kun nas de bzhin des// byang chub sems dpa' <sup>[N335a5]</sup> mthong <sup>[D293b4]</sup> ba med//

なぜなら (gang phyir, \*yat)、[菩薩は、菩薩という] 名称すらも見ず、[菩薩の] 活動領域も、[菩薩の] 活動も、[五つの] 蘊も、全てに関して、そのように [個別のあり方を有するものとして] は [見ない] ので、そのゆえに、[菩薩は] 菩薩を見ないのである。【T25, 913b4f.】

PrPPSV G429a2-429b1/ P347a2-347a5/ N348a5-348b2/ D304a3-304a6/ C311a2-311a6:

<sup>[P347a2]</sup> ji ltar zlog par byed (zlog par byed GPDC; zlag par byed N) ce na/ brjod pa ni/ (ni/ DC; ni GPN) **gang phvir ming yang**  
**ma** <sup>[C311a3]</sup> **mthong** <sup>[G429a3]</sup> **zhing//** (zhing// DC; zhing GPN) zhes bya ba la sogs pa'o// gtan tshigs **gang gi phvir ma**  
**mthong zhing** ma dmigs pa'o// (ma dmigs pa'o// PNDC; mi dmigs pa'o// G) ci zhis ma mthong zhe na (zhe na DC; na GPN) **ming**  
**yang** ste/ byang <sup>[P347a3]</sup> chub sems <sup>[N348a6]</sup> dpa' zhes bya <sup>[D304a4]</sup> ba'i **ming**<-> gang zhis ming du btags pa de  
 yang/ shes rab kyis (shes rab kyis GNDC; ges rab kyis P) <sup>[G429a4]</sup> ma dmigs pa'o// **yang** gi sgras (yang gi sgras DC; yang na sgras GPN)  
 ni <sup>[C311a4]</sup> gzhan lta re zhis zhog ste (ste GPDC; ste' N) zhes bstan to// ming (ming GPDC; ying N) 'ba' zhis ('ba' zhis PNDC; 'ga'  
 zhis G) tu ni ma zad <sup>[P347a4]</sup> de/ (ma zad de/ DC; ma zad de PN; ma zade G) **spvod vul yang** mi dmigs so// (dmigs so// PDC; dmigso// GN)  
**spvod** <sup>[N348a7]</sup> **vul** zhes bya ba ni yul la (yul la PNDC; yul G) brjod la/ de la yang byang chub sems <sup>[D304a5]</sup> dpa' rnam  
 kyi lam <sup>[G429a5]</sup> gyi mtshan nyid can gyi shes rab kyis pha rol tu phyin pa yin no// (yin no// GPDC; yino// N) **de bzhin**  
<sup>[P347a5/ C311a5]</sup> **du bya ba yang** ma dmigs so (dmigs so PDC; dmigso GN) zhes rjes su 'jug go// (rjes su 'jug go// D; rjes su 'jug go/ PC;  
 rjes su 'jugo/ N; rjesu 'jugo/ G) **bya ba ni kun tu** (kun tu GPN; kun du DC) spyod pa <sup>[N348b1]</sup> ste rjes su sgrub byed (rjes su sgrub byed  
 PDC; rjesu sgrub byed G; rjes su bsgrub byed N) kyis bsgrub pa zhes bya ba'i don to// **phung po rnam kyang** shin tu rnam  
<sup>[G429a6]</sup> par dag pa'i (shin tu rnam par dag pa'i PNDC; shin tu rnam par dag pa'i G) blos **kun nas** ma <sup>[D304a6]</sup> dmigs <sup>[P347a5]</sup> so// (dmigs so//  
 PDC; dmigso// G; dmigs so/ N) **phung po** ni gzugs dang tshor ba la sogs pa'o// **kun** <sup>[C311a6]</sup> **nas** zhes bya ba ni thams  
 cad nas te (thams cad nas te DC; omit. GPN) rnam pa mtha' dag gi <sup>[N348b2]</sup> sgo nas ma rtogs so// (rtogs so// PDC; rtogs// GN) **gang**  
 gi phyir de lta yin pa'i (de lta yin pa'i DC; de ltar yin pa'i GPN) rgyu des na **byang chub sems dpa'** <sup>[G429b1]</sup> **mthong ba med**  
<sup>[P347a7]</sup> do// (med do// PDC; medo// G; mad do// N)

如何にして[その迷乱は]否定されるのか、と[問うので——]「なぜなら、菩薩は、名称すらも……見ないので」(gang gi phyir ming yang ma mthong zhing, \*yan na paśyati nāmāpi, 若不見彼名)云々と言うのである。「なぜなら、菩薩は……見ないので」[すなわち、認識対象としないので[と]いうの]は、理由である。何を見ないので、と[問うので——]「菩薩は、名称すらも」[と]いうのである。すなわち、菩薩は、菩薩という名称[すらも見ないということである。]或るもの(A)が、名称を通して[誤って]構想されている場合、それ(A)はまた、智慧(shes rab, \*prajñā-)よって認識対象とされないものである[が、菩薩は、その名称すらも見ないのである。]「すらも」(yang, \*api)という語によって、況して、それ以外(名称以外)の似たようなもの(gzhan lta, \*anyadrśa-) [を見るの]は止めよ(zhog, \*āstām)、ということが説かれている。名称のみにとまらず、「菩薩は、菩薩の活動領域も」(spyod yul yang, \*gocaram ca) 認識対象としない。「活動領域」(spyod yul, \*gocara-, 境界)という[語]は、[活動の]対象領域(yul, \*viśaya-, 所行)[の意味]で説かれている。また、ここにおける[菩薩の活動領域とは、]菩薩[が智慧の完成に到達するための修行]道(lam, \*mārga-, 道)を特徴(mtshan nyid, \*lakṣaṇa-, 相)とする[智慧を完成させるための修行としての]般若波羅蜜多(shes rab kyi pha rou tu phyin pa, \*prajñāpāramitā-, 般若波羅蜜多)のことである<sup>24</sup>。「活動も……そのようには」(de bzhin du bya ba yang, \*kriyām tathā) 認識対象としない、というように[文は]接続する(rjes su 'jug, \*anu-√ṛt-)。「活動」(bya ba, \*kriyā-, 行)とは、行動(kun tu spyod pa, \*samācāra-, 所修)であって、[無二智の]達成に資するもの(rjes su sgrub byed, \*anusādhaka-/ \*anuvīdhāyin-)として遂行される[行為]という意味である。「五つの蘊も」(phung po rnam kyang, \*skandhās ca) 見事に清められた心(shin tu rnam par dag pa'i blo, \*suviśiddhamati-, 清淨妙慧)によっては、「全てに関して」(kun nas, \*sarvatas) 認識対象とされないのである。「五つの蘊」(phung po, \*skandha-)とは、物質や感受などである。「全てに関して」(kun nas, \*sarvatas, 一切處)とは、あらゆる方面から(thams cad nas, \*sarvasmāt, 遍一切處)、あらゆるあり方で(rnam pa tha 'dag gi sgo nas, \*sakalaprakāradvāreṇa, 一切種)、知覚しない[と]いう意味である。]何となれば、以上のような論証因があるがゆえに、そのゆえに、「菩薩は菩薩を見ないのである。」【T25, 905c29-906a15】

PrPPSV G429b1ff./ P347a7ff./ N348b2ff./ D304a6ff./ C311a6ff.:

'dis ni gang gi phyir bcom ldan 'das kiyis<sup>[D304a7]</sup> dri ma med pa'i ye shes kiyis byis pa rnam kiyis btags pa'i ming<sup>[C311a7]</sup> dang spyod yul<sup>[N348b3]</sup> la sogs pa rnam ma gzigs shing mi dmigs pa de'i phyir na<sup>[P347a8]</sup> yongs su

<sup>24</sup> 註8参照。

[G429b2] ma rdzogs pa rnam (yongs su ma rdzogs pa rnam PNDC; yongsu ma rdzogs pa rnam G) dngos por mngon par ma zhen pa (zhen pa GNDC; zhan pa P) la sbyor ba'i don du dngos po med pa'i rnam par rtog pa dngos po'i (dngos po'i DC; dngos po med pa GPN) rnam par rtog [D304b1] pa'i dgra bo nyid [N348b4] du (dgra bo nyid du DC; dgra bcom pa nyid du GPN) brjod pa yin no (yin no PDC; yino G; yin no// N) zhes bya ba ni (zhes bya ba ni DC; zhes bya ba'i GPN) [P347b1] bsdus pa'i [C311b1] don 'di brjod pa [G429b3] yin no// (yin no// PDC; yino// GN)

[つまり、] こ [の偈文 (v. 25)] によつては、[以下のことが] 意図されているのである—— [すなわち、] 何となれば、世尊は、穢れのない智 (dri ma med pa'i ye shes, \*nirmalajñāna-, 無染智) によつて、愚者 (byis pa, \*bāla-, 愚者) たちが [誤つて] 構想している (brtags pa, \*kalpita-, 執) [菩薩という] 名称 (ming, \*nāman-, 名) や [菩薩の] 活動領域 (spyod yul, \*gocara-, 境界) などをご覧にならず、[すなわち、] 認識対象となさらないがゆえに、そのゆえに、[世尊は、修行を未だ] 完成させておらぬ者たちをして、[存在せぬものを] 存在すと執著せぬ [境地] に適合せしめんがために、[存在するものを] 存在しない [とみなす誤つた] 構想 (dngos po med pa'i rnam par rtog pa, \*abhāvavikalpa-) を [存在しないものを] 存在する [とみなす誤つた] 構想に敵対するもの (dgra bo, \*pratyanika-) としてお説きになったのである、ということが、[ここにおける偈文を] 要約した内容である。【T25, 906a15-19】

陳那ならびに三宝尊が、この十種散乱分別に関わる『般若波羅蜜多經』の經文が、専ら修習の仕方を提示するのみではなく、真理を指し示すものとしても働くと考えすることは、以下に示す第 26 偈 (PrPPS) とそれに相応する三宝尊の註釈 (PrPPSV) により明らかとなる。否定されないものについて、陳那は明言しないが、文脈上、「無二智」が念頭に置かれていることは想像に難くなく、三宝尊にいたっては、それを「清淨智」と明白に提示する。

PrPPS v. 26:

kalpitasya niṣedho 'yam iti samgrahadarśanam/  
sarvo jñeyatayārūḍha ākāraḥ kalpito matau//26//

G413b5f./ P334b1f./ N335a5/ D293b4/ C300a4f.:

'di ni [C300a5] brtags pa 'gog pa yin// (yin// GPDC; yin//N) de 'dra bsdus pa'i lta ba [G413b6] ste// shes bya nyid du blor zhugs pa'i// rnam pa thams [P334b2] cad brtags pa yin//

「これ（「菩薩は菩薩を見ない」という文）は、[誤って] 構想されたもの [だけ] を否定するものである」というのが、[「菩薩は菩薩として存在している」という文と「菩薩は菩薩を見ない」という文とを] 包括する見解である。心の上に、知られるべき [対象という] あり方で立ち上ってくる形相は、すべて、[誤って] 構想されたものである。【T25, 913b6f.】

PrPPSV G429b3-430a2/ P347b1-347b7/ N348b4-349a3/ D304b1-304b5/ C311b1-311b5:

gal te de'i phyir byang chub sems dpa' med pa nyid yin na/ 'o na de'i tshe ngag dang po dang 'gal lo zhe na/ de'i phyir brjod pa ni/ **'di ni btags pa** <sup>[N348b5]</sup> **'gog pa vin//** (yin// DC; yin/ N; yin GP) zhes <sup>[P347b2]</sup> bya ba la sogs <sup>[D304b2]</sup> pa'o// **btags pa** zhes bya ba ni mthong <sup>[G429b4]</sup> ba phyin ci log dang ldan pa'i skye bo nmams kyis (skye bo nmams kyis DC; skye bo nmams kyi GPN) <sup>[C311b2]</sup> phung po dang khams dang skye mched nyid du (skye mched nyid du PDC; skye mched nyidu G; skye ba chad nyid du N) **btags pa gang yin pa de 'gog pa yin** gyi shin tu rnam par <sup>[N348b6]</sup> dag pa'i (shin tu rnam par dag pa'i PNDC; shin tu rnam par dag pa'i G) shes <sup>[P347b3]</sup> pa yang 'gog pa ni ma yin no (yin no DC; yin GPN) zhes 'dod pa'o// **de 'dra** zhes <sup>[G429b5]</sup> bya ba ni (ni DC; omit. GPN) de lta bu'o// (de lta bu'o// DC; de lta'o// GPN) <sup>[D304b3]</sup> **bsudus pa ni lta ba ste/** (ste/ N; ste GPDC) zhes bya ba ni bsudus pa mdzad pa'i lta ba yin pas bsudus pa'i lta ba <sup>[C311b3]</sup> ste/ (mdzad pa'i lta ba yin pas bsudus pa'i lta ba ste/ DC; mdzad pa'i lta ba ste/ GN; mjad pa'i lta ba ste/ P) **de'i bsam pa'o//** (bsam pa'o// DC; bsams pa'o// GPN) 'di nyid shes rab kyi pha rol tu <sup>[N348b7]</sup> phyin <sup>[P347b4]</sup> pa'i don 'dir (don 'dir DC; don GPN) **bsudus pa'i lta ba ste** nges pa dang rtogs (rtogs GPN; rtog DC) pa (pa DC; par GPN) zhes bya ba'i don to// des na 'di <sup>[G429b6]</sup> ni (di ni DC; 'dis ni GPN) yid ches pas nges par bya ba'i (nges par bya ba'i GPDC; ngas par bya ba'i N) **don yin** <sup>[D304b4]</sup> no (yin no PDC; yino G; yino// N) zhes ston pa yin no// (yin no// PNDC; yino// G) 'di nyid rigs pas bstan par byed pas (bstan par byed pas N; stan par byed pas GP; bstan par byed pa DC) brjod <sup>[P347b5]</sup> pa ni/ **shes bya nyid** <sup>[C311b4]</sup> **du** (shes bya nyid du PNDC; shes bya nyidu G) <sup>[N349a1]</sup> zhes bya ba la sogs pa'o// **thams cad** (thams cad PNDC; tham'd G) ces bya ba ni ma lus pa'o// **shes bya nyid du** zhes bya ba ni yongs su <sup>[G430a1]</sup> gcad par bya ba nyid du'o// (yongs su gcad par bya ba nyid du'o// DC; yongs su bead par bya ba nyid du'o// PN; yongsu bead par bya ba nyid du'o// G) **zhugs pa** ni chud pa'o// gang du zhe na/ <sup>[P347b5]</sup> **blor te/** (blor te/ GPN; blor te DC) blo <sup>[D304b5]</sup> zhes bya bar <sup>[N349a2]</sup> rtogs par ro// (rtogs par ro// PNDC; rtog paro// G) **zhugs pa** de ci zhig ce na/ **rnam pa** zhes smras so// (smras so// PNDC; smraso G) rjes su byed pas (rjes su byed pas PNDC; rjesu byed pas G) <sup>[C311b5]</sup> **rnam pa** ste/ der snang ba'o// **rnam pa** de ci 'dra ba zhig yin <sup>[G430a2]</sup> zhe na/ **brtags** <sup>[P347b7]</sup> **pa** zhes bya ba ni lan te/ rtog pas (rtog pas DC; rtogs pas GPN) rnam par bsgrubs <sup>[N349a3]</sup> pa (rnam par bsgrubs pa GPN; rnam par bsgrub pa DC) yin gyi de kho na nyid ma yin no// (yin no// PDC; yino// GN)

もし、以上の [ように、菩薩は見られないが] 故に、菩薩が**存在しない**としたならば、そうであるとしたならば、その場合には、[「菩薩は菩薩として**存在している**が」という] 初めの文と矛盾する

こととなる、と [言うので、] このゆえに——「これ（「菩薩は菩薩を見ない」という文）は、「誤って」構想されたもの[だけ]を否定するものである」（*di ni btags pa 'gog pa yin, \*kalpitasya niṣedho 'yam*, 此止遣遍計）云々と言うのである。「「誤って」構想されたもの」（*btags pa, \*kalpita-*, 遍計）とは、何であれ、顛倒した見解（*mthong ba phin ci log, \*viparītaḍṣṭi-*, 顛倒之見）を有する人々によって [五] 蘊（*phung po, \*skandha-*, 蘊）や [十八] 界（*khamṣ, \*dhātu-*, 界）や [十二] 処（*skye mched, \*āyatana-*, 處）として [存在しないにもかかわらず、存在すると誤って] 構想されているものであるが、[以上の偈文（v. 24, v. 25）は、] それを「否定するもの」（*'gog pa yin, \*niṣedha-*）であって、見事に清められた智（*shin tu rnam par dag pa'i shes pa, \*suviśuddhajñāna-*）までも否定するものではない、と認められる。「というのが」（*de 'dra, \*iti*, 此）というのは、というようなことが（*de lta bu, \*tathāvidha-*, 如是）、[という意味である。]「包括する見解」（*bsdus pa ni lta ba ste, \*saṃgrahadarśanam*, 普攝説）とは、包括を為している見解（*bsdus pa mdzad pa'i lta ba, \*saṃgrahakṛtavaddarśana-*, 作者普攝而説）であるから、包括する見解であって、以上の [偈文（v. 24, v. 25）にこめられた] 意趣（*bsam pa, \*abhiprāya-*, 勝意樂）である。これ（「「誤って」構想されたもの[だけ]を否定するものである」ということ）こそが、上述の『般若波羅蜜多[経]』の内容を「包括する見解」（*bsdus pa ni lta ba, \*saṃgrahadarśana-*, 普攝而説）、[すなわち、包括する] 確定知（*nges pa, \*niścaya-*, 決定）であり、[包括する] 共通認識（*rtogs pa, \*pratīti-*, 獲得究竟）である、という意味である。よって、これ（「「誤って」構想されたもの[だけ]を否定するものである」ということ）こそが、信心（*yid ches pa, \*pratyaaya-*）に基づいて確信されるべき（*nges par bya ba, \*avaseya-*）事柄である、ということが説かれていることとなる。[さらに、] まさしく、これ（「「誤って」構想されたもの[だけ]を否定するものである」ということ）を、論理的根拠（*rigs pa, \*yukti-*）に基づいて示して——「知られるべき[対象という]あり方で」（*shes bya nyid du, \*jñeyatayā*, 智……因）云々と言うのである。「すべて」（*thams cad, \*sarvaḥ*, 一切）とは、余すところなく（*ma lus pa, \*niḥśeṣa-*, 普盡）、[という意味である。]「知られるべき[対象という]あり方で」（*shes bya nyid du, \*jñeyatayā*, 智因）とは、判別されるべき [対象という] あり方で（*yongs su gcad par bya ba nyid du, \*paricchedyatayā*, 以了別智而為因故）、[という意味である。]「立ち上ってくる[形相]」（*zhugs pa, \*ārūḍhaḥ*）とは、[無明により心の上に]投げ込まれた[形相]（*chud pa, \*arpana-*）、[という意味である。] [形相は] 何に [立ち上ってくるの] か、と [問うので——]「心の上に」（*blor, \*matau*, 慧）と言うのである。[ここにおける]「心」（*blo, \*mati-*, 慧）と [いう語] は、知覚（*rtogs pa, \*saṃvedana-*） [の意味] で [用いられている]。その「立ち上ってくる[もの]」（*zhugs pa, \*ārūḍha-*）は、何であるか、と [問うので——]「形相」（*mam pa, \*ākāra-*, 諸相）であると言うのである。見せ掛ける（*rjes su byed pa, \*anukaroti*, 普集作用）から「形相」（*mam pa, \*ākāra-*, 相）であり、[形相は]

そこ（心）に顕現するもの（snang ba, \*ābhāsa-）である。その「形相」（mam pa, \*ākāra-, 相）とは、どのような（ci 'dra ba zhid, \*kīdṛsa-, 何等）ものか、と [問うので——] 「誤って」 構想されたものである」（brtags pa, \*kalpitah, 分別）と答えるのである。[形相は、] 構想するもの（rtog pa, \*kalpanā-, 分別）によって形成されたもの（nmam par bsgrubs pa, \*vīthapita-, 諸行相）であって、真実（de kho na nyid, \*tattva-, 實性）ではない。【T25, 906a19-906b8】

PrPPSV G430a2f./ P347b7f./ N349a3f./ D304b5f./ C311b5f.:

'dis ni 'di skad du/ gang gi<sup>[D304b6]</sup> phyir phy'i don thams cad (thams cad PNDC; thamd G) kyang tshad ma dag (tshad ma dag GPNDC; chad ma dag C) gis dpyad pa na (dpyad pa na DC; spyad na GPN) rdul phra rab la sogs<sup>[P347b8]</sup> pa'i rang<sup>[C311b6]</sup> bzhin du mi 'thad pa<sup>[G430a3]</sup> yin te/ des na shes pa'i bdag nyid la yang gnas pa'i<sup>[N349a4]</sup> nmam pa (gnas pa'i nmam pa DC; gnas pa nmam pa GPN) gang yin pa 'di ni thams cad (thams cad PNDC; thamd G) kyang btags pa yin no (yin no PDC; yino G; yin no/ N) zhes nges par ston pa yin no// (yin no/ PDC; yino/ N; yino/ G)

[つまり、] こ [の偈文 (v. 26)] によっては、以下のことが明確に意図されているのである—— [すなわち、] 何となれば、あらゆる外界の対象は、妥当な認識（推論）によって吟味された場合には、極微（rdul phra rab, \*paramāṇu-）などを本質とするものとしては不適合となる<sup>25</sup>がゆえに、そのゆえに、[外界の対象とされているものは、] 智を本性とするものの上に存立している形相であること

<sup>25</sup> 例えば、世親は、その著作『唯識二十論』（VimśV）の中において、「何であれ、色形など（A）が、個々に認識（rūpādivijñapti-）の対象となっている場合にも、そ [のような色形など]（A）は、決して存在しないということは [如何にして理解されるべきか]」（VimśV 6, 23f.）との対論者の問いに対して、「何となれば——<sup>[1]</sup> これ（色形などという粗大なもの）は、単一なものであっても [対象では] なく、また、<sup>[2]</sup> 極微ごとに [互いに間隔を保った状態にある] 多数 [の極微] であっても対象ではなく、また<sup>[3]</sup> それら [多数の極微] の [間隙無く] 集合しているものであっても [対象では] ないからである……。 [11]」（VimśV 6, 25f.）と答えて、以上の三つの場合（[1] [2] [3]）について吟味（VimśV 6, 27-7, 17）した後、さらに、縷々、極微に関連する議論を展開（VimśV 7, 17-8, 19）して、最終的には、以下のように、極微を否定し、認識のみが成立すると結論している。VimśV 8, 19-22: yadi lakṣaṇabhedād eva dravyāntaratvaṃ kalpyate na anyathā. tasmād avaśyaṃ paramāṇuśo bhedaḥ kalpayitavyaḥ. sa ca eko na sidhyati. tasya asiddhau rūpādīnām cakṣurādiviśayatvaṃ asiddham iti siddhaṃ vijñaptimātraṃ bhavatīti（もし、[諸々の実有が、] ただ特徴の違いのみに基づいて、[互いに] 異なる実有であると考えられるとしたならば、[諸々の実有が、] 他のものに基づいて [互いに異なる実有であると認められ] ない [ことになってしまう。] そのゆえに、必ずや、[眼などの対象は、] 極微ごとに分割されると考えられるべきである。そして、そ [の極微] も、単一 [な実有] としては成立しないのである。そ [の極微] が [単一な実有としては] 成立しない場合には、色形などが眼などの対象であることも成立しない。このゆえに、ただ認識のみ [が存在するという] ことが成立するのである、と）。

となる<sup>26</sup>が、それは、すべて、[誤って] 構想されたものである、ということである。【T25. 906b8-11】

以上のごとく、否定されるべき五蘊などと否定されずに残る「無二智」「清浄智」とが示されたところ  
で、『仏母般若波羅蜜多円集要義釈論』においては、それらの関係性とそれらの成り立ちの仕組みを示す  
三性説が解説されるが、これ以下の和訳については別稿を期す。

<sup>26</sup> 例えば、陳那は、その著書、『観所縁論』（ĀPV）の中で、認識の内側に外界の対象のごとくに顕現しているものこそが、所縁の2条件——（1）認識がそれを原因として生じ、かつ、（2）認識がその顕現を有する——に合致するがゆえに、所縁縁（\*ālabhanapratyaya-）であると主張している。ĀPV P178b2ff./D87a1f.: nang gi shes bya'i ngo bo ni// pyi rol ltar snang <sup>[P178b3]</sup> gang yin de// don yin [6abc] phyi rol gyi don med bzhin du phyi rol lta <sup>[D87a2]</sup> bur snagn ba nang na yod pa kho na dmigs pa'i rkyen yin no// rnam shes ngo bo'i phyir// de rkyen nyid kyang yin phyir ro// [6c'd] nang gi rnam par shes pa ni don du snang ba <sup>[P178b4]</sup> dang / de las skyes pa yin pas/ chos nyid gnyis dang ldan pa'i phyir nang na yod pa kho na dmigs pa'i rkyen yin no// （何であれ、[認識の] 内側に、[認識の] 外側にあるもののごとくに、認識されるべきもののあり方（A）が、顕現している場合、それ（A）が対象である。 [6abc] [認識の] 外側の対象は存在しないので、[認識の] 外側にあるかのごとくに顕現している [認識の] 内側に存在しているもの（認識されるべきもののあり方）こそが、所縁縁である。〔何となれば、それ（A）は、] 認識というあり方を有しているからであり、かつまた、それ（認識） [が生起するための] 条件でもあるからである。 [6c'd] 実に、内なる認識は、対象のあり方をもって顕現しており、かつ、[その内なる認識は、] それ（認識の内側に顕現している対象のあり方）から生起したものであるから、[認識の] 内側に存在しているものこそが [所縁の条件たる] 二つの特性を有しているがゆえに、所縁縁である）。

(76)

略号

- AAĀPrPvy *Abhisamayālamkāra-loka Prajñāpāramitavyākhyā-* (Haribhadra-).  
"Abhisamayālamkāra-loka Prajñāpāramitavyākhyā: the work of Haribhadra together with the text commented on," ed. Unrai WOGIHARA, Tokyo : Sankibo Buddhist Book Store, 1973.
- ĀPV *Ālambanaparīkṣāvṛtti-* (Dignāga-).  
Qv. P tshad ma Ce No. 5704/ D tshad ma Ce No. 4206.
- ASBh *Abhidharmasamuccayabhāṣya-* (Sthiramati-).  
"Abhidharmasamuccaya-bhāṣyam," ed. Nathmal ṬAṬIA, Patna : K. P. Jayaswal Research Institute, 1976.
- ASPrPS *Aṣṭāsāhasrikā Prajñāpāramitā-*.  
Qv. AAĀPrPvy.
- C *Co ne bstan 'gyur.*
- D デルゲ版西藏大藏經。  
高野山大学附属図書館監修『デルゲ版西藏大藏經 DVD-ROM 版』大阪：小林写真工業株式会社。
- DN *Dīghanikāya.*  
"The Dīgha Nikāya," ed. T. W. Rhys Davids and J. Estlin Carpenter, London : Pali Text Society, 1966-1976.
- G *dGa' ldan gser bris bstan 'gyur (dGa' ldan Golden Manuscript bsTan 'gyur).*
- GhVS *Ghanavyūhanāmahāyānasūtra-*.  
Qv. P mdo sna tshogs Cu No. 778/ D mdo sna tshogs Cha No. 110.
- MSAVy *Mahāyānasūtrālamkāravvyākhyā-* (Vasubandhu-).  
"Mahāyāna-Sūtrālamkāra: exposé de la doctrine du Grand Véhicule selon le système Yogācāra," éd. Sylvain LÉVI, Paris : H. Champion, 1907-1911.
- MSBh *Mahāyānasamgrahabhāṣya-*, Tibetan translation: Theg pa chen po bsdus pa'i 'grel pa (Vasubandhu-).  
Qv. P sems tsam Li No. 5551/ D sems tsam Ri No. 4050.
- N *sNar thang bstan 'gyur.*
- P 北京版西藏大藏經。

- "Tibetan Tripitaka, Peking edition," Tokyo : Tibetan Tripitaka Research Institute, 1955-58.
- PrPPS *Prajñāpāramitāpiṇḍārthasaṃgraha-* (Dignāga).  
*Dignāga, sein Werk und seine Entwicklung*, ed. Erich FRAUWALLNER, "Wiener Zeitschrift für die Kunde Süd- und Ostasiens," Vol. 3, p. 140-p. 144, Wien : Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 1953.
- PrPPSV *Prajñāpāramitāpiṇḍārthasaṃgrahavivarāṇa-*, Tibetan translation: 'phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin ma bsod pa'i tshig le'ur bya pa'i rnam par 'grel pa (Triratnadāsa).  
Qv. G sher phyin Pha/ P sher phyin Pha No. 5208/ N sher phyin Pha No. 3981/ D sher phyin Pha No. 3810/ C sher phyin Pha.
- PVin *Pramāṇaviniścaya-* (Dharmakīrti-).  
"Dharmakīrti's Pramāṇaviniścaya. Chapters 1 and 2," ed. Ernst Steinkellner, Beijing : China Tibetology ; Vienna : Austrian Academy of Sciences Press, 2007.
- PVSPrP *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā-*.  
"The Pañcaviṃśatisāhasrikā prajñāpāramitā," ed. Nalinaksha DUTT, London : Luzac, 1934.
- PVT *Pramāṇavārttikaṭīkā-* (Śākyabuddhi-).  
Qv. P tshad ma Nye No. 5718/ D tshad ma Nye No. 4220.
- PVV *Pramāṇavārttikavṛtti-* (Manorathanandin-).  
*Dharmakīrti's Pramāṇavārttika with a commentary by Manorathanandin*, ed. Rāhula SAṆKṚTYĀYANA, "The Journal of the Bihar and Orissa Research Society," Patna : The Bihar and Orissa Research Society, 1938-1940.
- ŚSPrP *Śatasāhasrikā Prajñāpāramitā*.  
"Çatasāhasrikā prajñāpāramitā: A theological and philosophical discourse of buddha with his disciples," part 1, fas. 1, ed. Pratāpacandra GHOṢA, Culcutta : The Asiatic Society, 1902.
- T 大正新脩大藏經。  
高楠順次郎編輯『大正新脩大藏經』東京：大正一切經刊行會、1924-1934。
- Tāranātha *rGya gar chos 'byung* (Tāranātha).  
"Five Historical Works of Tāranātha," Tezu, Arunachal Pradesh : Tibetan Nyingmapa

- Monastery, 1974.
- VimśV Vimśatikāvijñaptimātrasiddhivṛtti- (Vasubandhu-).  
"Vijñaptimātratāsiddhi: Deux traités de Vasubandhu: Vimśatikā (La Vingtaine) accompagnée d'une explication en prose et Triṃśikā (La Trentaine) avec le commentaire de Sthiramati," éd. Sylvain LÉVI, Paris : H. Champion, 1925.
- 寺本 婉雅 [1974] 『印度仏教史: 西藏伝仏典訳註仏教研究第1輯』ターラナータ著、寺本婉雅訳、東京：国書刊行会。
- 飛田 康裕 [2017] 「『般若心経』の秘められた意図：瑜伽行派文献における「十種散乱」を手がかりに」『早稲田大学高等学院研究年誌』第61号、p. (1)-p. (40)、早稲田大学高等学院。
- 飛田 康裕 [2018] 「『般若心経』の秘められた真実：瑜伽行派文献における「十種散乱」を手がかりに」『早稲田大学高等学院研究年誌』第62号、p. (9)-p. (66)、早稲田大学高等学院。
- 飛田 康裕 [2019] 「円成実性を基軸とする三性説の特徴と思想史上の意義について：三宝尊『仏母般若波羅蜜多円集要義論註』における三性説」『早稲田大学高等学院研究年誌』第63号、p. (9)-p. (44)、早稲田大学高等学院。
- 服部 正明 [1961] 「ディグナーガの般若経解釈」『大阪府立大学紀要(人文・社会科学)』第9巻、p. 119-p. 136、大阪：大阪府立大学。
- Lama Chimpa, etc. [1970] "Tāranātha's history of Buddhism in India: translated from the Tibetan by Lama Chimpa, Alaka Chattopadhyaya," ed. Debiprasad Chattopadhyaya, Calcutta : K.P. Bagchi, 1970.

小稿は、早稲田大学特定課題研究助成費（2019C-410）の成果の一部である。